



Capse

ALUMNI BULLETIN,
NUMAZU COLLEGE OF
TECHNOLOGY
1993/Vol.12

沼津工業高等専門学校同窓会

Copse
コプス

語源は英語の copse 〈雑木林〉です。
沼津高専創立当時の周囲に林立し、今もなお、
食堂付近におもかげを残している雑木林と、
校歌の中の「伸び急ぐ小林が樹」をイメージした愛称です。

CONTENTS

- 沼津高専創立30周年にあたって 〈名誉会長〉 工藤圭章 2
- 会誌発行に寄せて 〈会長〉 木ノ内倫弘 4
- 五年間の一貫教育 〈副会長〉 仁科和晴 6
- 事務局からのお知らせ 〈事務長〉 坂井徳尚 7

こんな趣味に生きてます…

- ゴルフとの出会い 太田伴己 8
- 磯釣 関戸英樹 9
- 我が SRX400 古屋忠正 11

21世紀に向けて

- 21世紀に向けてどうなる世界、どうする日本 柳下福蔵 12
- 21世紀に向けて思うこと 市川加代子 13
- 未来に向けて 芹沢洋祐 14
- 近況報告 大日方一郎 16

ヒット商品うらばなし

- 超精密抵抗器へのご案内 佐藤牧夫 18

同窓会誌に寄せて

- 近況報告 〈事務部長〉 弘中赴夫 21
- 高専生列伝 〈物質工学科教官〉 勝沢英夫 22
- サッカー草創期 〈退官教官〉 澤田眞養 24
- ちょと言 〈退官教官〉 西谷元夫 25
- 雑感 〈退官教官〉 野中 宏 26
- “あそび” ということ 〈退官教官〉 渥美武明 27

近況報告

- 放送大学と諏訪湖マラソン 松井孝成 29
- 高層気象観測 浦山正己 30
- 近況報告 吉川英夫 31
- 近況報告 山口則夫 32
- 海外出張奮闘記 加藤 哲 33
- 雑感 塩川 治 35
- Dr. 中松講演会報告 〈工業化学科4年〉 市川雅章 36
- 細々と地道に活動中(西湘支部だより) 増田徳一 38
- 小関克己君を想う 西條弘次 39
- 平成4年度体育大会成績 40
- 産学官交流へ初の学内見学会 42
- 同窓会会則 43
- 編集後記 46



沼津高専 創立30周年にあたって

同窓会名誉会長 工藤圭章

平成4年11月11日(木)沼津市民文化センターで創立30周年記念講演会が盛大に行われました。当日の講師は日本芸術院長の犬丸直先生で、『芸術と文化』という題でお話し頂きました。この講演会に同窓会から多大のご協力を頂きましたことを、深く感謝致しております。当日は日本晴れで、雪をいただく富士の姿も美しく、まさに北京秋天ならぬ沼津秋天ともいえるような日和でした。記念講演会を富士も喜んでるように思えるほどでした。

昭和37年に開校された本校は、昭和42年3月初めて120名の卒業生を世に送りだしてから、ちょうど四半世紀になります。以来、3889名の卒業生が各界で活躍されています。在校生は現在1048名を数えますので、本校で学んだ学生の総数は5000名になんなんとしています。30周年を迎えての大なる軌跡と申せましょう。この4月から機械工学科の1クラスが制御情報工学科に改組されました。したがって、本校は機械工学科・電気工学科・電子制御工学科・物質工学科、そして制御情報工学科の5学科を擁する高専となりました。

昨年度に図書館の耐震改修工事が終わり、さらに物質工学科生物工学実験棟が新しく竣工していますが、本年は学寮食堂の改修拡張工事と女子学生寮の増築工事が進められています。これからも構内施設が整備されてゆくことと思います。沼津工業高等専門学校のこれからの歩みを見守って頂ければ幸いです。

昨今、バブル経済の崩壊により我が国にリセッションが訪れたことが盛んにいわれています。消費者の購買量が前年度より低下しているとか、企業の設備投資が停滞しはじめたとか、さらにまた、西銀座・六本木界隈の遊興飲食街に陰りが見えたとか、新聞雑誌の随所にこの種の記事がよく掲載されています。とはいうものの、本年度卒業予定者の就職については、とくに悪い影響がありませんでした。しかし、来年度以降どのようになるのか気懸かりです。

高専発足以来、全国各高専の卒業生の総計は20万人に達しています。時には不況の風の

吹いた時期もあって、厳しい就職戦線に遭遇したこともありましたが、試練を潜り抜けていま社会で活躍されている先輩諸氏に続くべく、在校生も頑張っています。彼らは企業のことを同窓の先輩の方がたから親しく教えていただきたいと思っています。よろしくご指導のほどをお願いいたします。

リセッションによる製造業の設備投資の停滞は、新製品の製作のための研究開発に水をさすことならないかと危惧されます。それはまた製造機器の積極的開発にも影響が現れないはずがありません。製品に対する研究開発が足踏みするようなことがあつては、製造業のダイナミズムが失われかねない問題を孕んでいます。就職戦線の変化よりも、むしろこの方が切実で深刻であると申せましょう。

世界的な経済不振とともに、各地での民族間の武力による紛争は、痛ましい犠牲者の数を増すだけで、解決に向かつての曙光が見られないことは悲しいことです。考えてみればわが国では17世紀初頭まで領国の拡張のため、隣国への武力による侵入が当然のことと是認されてきました。また、宗教的な信条から自宗だけに拠る領地の支配をもくろみ、武力を行使しての一揆騒動もあって、いわば騒乱の時代でした。歴史的には徳川幕府の施政は士農工商制度を確立して身分を定め、人権を抑圧したのは問題ですが、250年以上も変化を固定し太平の世を続けたのは、国権による武力の行使を止めた点で評価できるでしょう。民族に根強く残る対立は、人権的差別・宗教的葛藤・経済貧困が原因になっていることが多いようです。勿論、単純にそう決めることは短絡しすぎかもしれませんが、主としてこの3点が問題になっているようです。各民族が経済的に恵まれるようになれば、他の2点も自ずから解決でき、他の立場を理解できる心の広さが育まれることでしょう。

世界の平和のために、豊かな生活が送れるように、テクノロジーを役立たせなければなりません。リセッションで研究開発が遅れることは、世界の経済を緩慢にする事につながり、ひいては世界平和を遅らすことにもなりかねないという、誇大妄想に過ぎるでしょうか。創立30周年の節目の年にあたって、昨今の内外の情勢を考えてみました。



会誌発行に寄せて

同窓会会長 木ノ内 倫 弘

歴代の編集委員各位の努力と会員の協力により、沼津高専同窓会誌も早や第12号を発行するに至りました。途中で種々の事情により間隔のあいた事もありますが、ともかくもここまで継続・発展しつつあることは誠に喜ばしいことでもあります。関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

さて同窓会の活動方針について、既に総会等で説明済みではありますが改めてその主たる所を御案内致します。

1. 継続性の重視

言う迄もなく同窓会は未来永劫に続くものであり、決して打上げ花火的に終わって良いものではありません。従っていかに長期的に物事を計画し、実行して行くかを常に考え討議しながら活動をして行きたいと思えます。こまぎれ的な対応は極力避けて行きます。

2. 個人負担の軽減

同窓会役員と言えども基本的には社会人であり、毎日毎日の生活をして行けねばなりません。当然務めを持っている訳です。この中で同窓会の活動を推進するにはやはり相当の苦痛も伴います。このことが同窓会役員の選出時に辞退者が続出する最大原因です。又選出された人でもなかなか本格的な活動に参加しにくい現状です。この現実を良く見ながら、役員の個人的な負担は極力軽減させつつ、活動を発展させる方法を模索して行きます。

3. 人材の育成

現役は勿論ですが次世代、21世紀の沼津高専同窓会を背負う人材を育てたいと思えます。特に同窓会役員などやっても経済的なプラスになる訳ではありませんが、いろいろな人とつき合い、いろいろな仕事をする事によって人間の中とかスケールがひとまわり大きくなる良いチャンスだと思います。まず自分の生活を確立し、その上で同窓会活動

もできる人間＝「世の期待に応えられる人間」を育成して行きます。

4. 情報の共有化

同窓会誌、だより、会員名簿等の発行は従来よりやってきましたが、更に内容を充実させ会員各位の役に立つよう整備したいと思えます。特に今後は母校の発行する文書等も良いものは紹介したいと思えます。

5. 健全財政の保持

ここ数年安定した財政状態ですが、更に長期的なプロジェクトを練りつつ財政計画を建てて行きます

以上簡単ではありますが同窓会運営の基本的な考え方を説明致しました。私達役員一同まだ未熟な人間の集まりですが、少しでも皆様の期待に応えたいと一生懸命です。会員諸兄におかれましても現状を良く御理解いただき、同窓会活動を共に楽しくやろうではありませんか。

時あたかも母校では創立30周年を迎えました。同窓会も25周年です。これを機会に新たな目標に向かって会員各位の更なる努力を期待し、有意義な人生を送られることを祈念致します。



5年間の一貫教育

同窓会副会長 仁科和晴

母校創立30周年は、何と早いものかと思えます。今は、高専から大学へと進む学生も多く、時代も変わったものです。しかし、大学へ多数行くことが良いかどうかは、若干疑問に思えます。

人間の寿命が伸びたといっても、有効に社会で活躍する、生産年齢は、限られたものです。個人差はあれ、20才～65才ぐらいは、プロとして社会で働く年齢であり、とりわけ20才～30才は、最も若い力が発揮できる年齢です。過去の偉大な業績がこの年代でなされた例も多いことを思うと、大学や大学院は、それなりの目的を持って行った方が良いと思います。今や全人口に占める、生産年齢人口の比率は、下りつつあり、年金問題においても多くの受給者を、少ない若者が支える傾向になろうとしています。より多くの人々が働くことは、日本の経済成長の観点からも重要で、特に今後、「内需拡大」に国の活路を求めようというとき、20才～30才ぐらいの若者は職場で力を発揮したいものです。そして学生生活のみ長く続けるより、一旦社会に出てから学ぶというシステムを充実させることの方が、学ぶ上での視野を広げる上でもよいと思うのです。

物を製造する場合は、いかに短時間で良い物を作るかに努力が注がれますが、教育においても、限られた時間で内容豊かに行なわれることが評価されるべきだと思います。このような意味で、5年間の一貫教育後20才で、社会に出るパターンは、非常に良いと思うのです。母校が、日本の社会において大きな存在になることを祈りつつ30周年の節目に書いてみました。



事務局よりのお知らせ

事務局長 坂井徳尚

平成4年11月11日、沼津市民文化センター大ホールに於いて、沼津高専創立30周年の記念式典が、快晴のなか、日本一の富士に見守られ、盛大に挙行されました。

私が6期生として入学したその年、昭和42年に第1期生が卒業され、沼津高専同窓会の歴史が始まりました。そして25年がすぎ、会員も4000名に迫ろうとしております。

多くの方々の御協力により、一步一步前進してまいりました同窓会ですが、このような歴史の節目節目に、今までの歴史を振り返りながら、活動内容、組織等を見直してゆかなければならないと思っております。

これからの活動方針等を見定めく為、昨年は、理事へのアンケート調査、同窓会役員経験者や母校在職の同窓生との話し合い等、機会あるごとに考えてまいりました。本誌の中で、木ノ内会長より、同窓会の活動方針は、非常にわかりやすく述べられております。事務局といたしましては、その意に沿うべく、具体的な活動をしてゆかなければと思っております。そして、少しでも多くの会員に関わっていただける同窓会であって欲しいと思っております。もし、そのような機会があるときには、是非共、楽しく、又気楽に参加して下さいようお願い致します。

平成5年度の事業といたしましては、

- (1) '93同窓会名簿の発行
- (2) 総会の開催
- (3) 同窓会だよりの発行

を予定しております。特に毎度のことながら、5年に1度の同窓会名簿の発行では、各クラスの理事をはじめとして、会員一同の協力が必要です。皆様の御協力によりまして、住所不明者が1人でも少ない名簿ができることをお願いするばかりです。これからも、同窓会役員一同、精一杯頑張りますので、御協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

こんな趣味に生きてます

ゴルフとの出会い

M17 太田 伴 巳



私はM17期卒業生で、卒業して10年が経過しましたが、今回初めて同窓会誌に投稿させて頂く事となりました。そのため、何を書こうかといういろいろ悩みましたが、今回は「私の趣味」について執筆させて頂く事にしました。

私は芸術的センスが無かった事から、体を動かす事が好きでした。特に球技が得意で、小学校時代から現在に至るまで野球を続けており、現在ではソフト・バレー等、様々な球技種目を趣味として楽しんでいます。

そんな私が今まで体験した球技の中で、特に難しいと感じたのがゴルフです。初めてゴルフをしたのはちょうど4年前の秋ですが、職場の

先輩から勧められたのがきっかけでした。しかし、当時はクラブも持っていなかった私ですから、どこでどんな練習をすれば良いのか全くわかりません。職場の係長からハーフのゴルフクラブを頂戴して、会社の近くのゴルフ練習場に出かけ、気のみ気のままボールを打ち始めました。ところがどうでしょう。レッスンを受けたわけでも何でも無く、我流で打っているのですから、まともにボールが当たらないのです。しかも、たまに当たってもひどいスライスボールばかりで、とても真っすぐ飛ぶ雰囲気では無かったです。確かに初心者、特に野球経験者はスライスし易いという話なのですが、私のそれは、もうひどいものでした。こんな状態で3~4回ゴルフ練習場に通い、なんと大胆にも初めてコースをラウンドしたのです。会社のコンペだったのですが、ゴルフコースをラウンドするのは初めての私ですから、当日何もかもが新鮮で、驚く事ばかりでした。今考えると、ゴルフコースとしては決して広いコースでは無かったのですが、その壮大な景色、プレー中のさわやかな感覚、ナイスショットした時の喜び、それら全てが強い刺激となって私の心を貫いたのです。案の定スコアはひどいものでしたが、初めてゴルフのおもしろみを体験したのです。その時から、私は2年程の間、コースをラウンドする快感を忘れられず、小遣いの少ない中、年に3~4回くらいコースをラウンドしたのです。しかし、日頃ほとんど練習していなかったため、全く腕の方は上達しませんでした。(決して今

も、上達しているとは言えませんが…)

そんな時、何名かの職場の若い連中がゴルフをやり始めました。そして、昼休みに会社の守衛所横の300㎡程度の狭い芝生で、ゴルフの練習を始めたのです。芝生の2~3ヶ所にグリーン上のカップに見立てた穴をあけ、10~20ヤード程度の距離をパー3でラウンドするのです。私は初め、この光景を見て、「こんな事でゴルフが上達するとは思えないし、意味があるのかな?」と思っていました。しかし、いつの日か一緒に仲間入りして、通称『NOK オープン』なるこの昼休みのゴルフ練習をする事になったのです。こんな小さな芝生の上のゴルフなのですが、これが、やってみるとなかなかおもしろ味のあるもので、その時から、私は毎日このゲームを楽しむ様になりました。自分達でOBの箇所やコースを決め、ティーショットの位置を決める。時には傾斜の部分から打ったり、バンカーと称す砂地から打ったり、木の上から打ったり…。そして、いつの日かプレー代として、1日1人100円を徴収し、ホールインワンの賞金制度を設けるなどして、お互いのプレーを競い合ったのです。良く考えてみると、コースでは何の役にも立たない事が多いのですが私達は、コースを組み立てる楽しさと、スコアメイクをし、ゲームを競い合うおもしろ味を同時に味わい、この『NOK オープン』が1日の日課になってしまいました。これまで、あまり練習もせず、一生懸命ゴルフに取り組んでいなかった私ですが、これがきっかけとなり、かなりゴルフに対する取り組み方が変わって来た様に思います。現在では、小さな芝生では物足りず、グラウンドの芝生の上で、ゴルフ(いや、今だに草刈りかな?)をやっています。とは言っても、依然腕の方は上達しておらず、100の壁に苦しんでいます…。

とにかく、ゴルフと言うスポーツが、私の中で大きな趣味の一部になって来ている様です。

素質の無い私なので、今後どれだけ上達するか期待出来ませんが、これからも末永く仲良く付き合っていきたいと思います。

磯 釣

M13 関 戸 秀 樹



同窓生の皆さんお元気ですか。私は昭和53年機械工学科を卒業しましたが、早いもので瞬く間に14年が過ぎようとしております。20代の思考錯誤の中、就職、結婚と全力を尽くしてやってまいりましたが、早や33才、3人の息子の父親になっている事を思うと、自分の事とはいえ、時の早さを感じざるを得ません。

そうした中、在校中所属していた硬式テニス部のOB会は、定期的開催され、先輩方や後輩の皆と苦勞話、笑い話を肴に飲む酒のうまさは格別に旨いものであります。やはり沼津高専は私の原点であり、基本なのかもしれません。さて私は現在、企業の中で営業の仕事をしておりますが、これもなかなか難物で日々泣いたり笑ったり木の葉のように揉まれている有様ですが、そのような中でも、大好きな趣味があると、この事は、自分の気分転換にとっても良い事だと

感じております。

私の場合は学校時代の友人と共に毎月磯釣を楽しんでおります。釣りといえば、誰しも幼年時代から楽しんだものであり、いろいろな思い出があるかと思いますが、私も少年時代からよく釣りに出掛けたものです。小学校の頃、近くの川へハゼ釣りに出掛け釣れ過ぎて夢中になり夜になっても帰らず、両親に随分心配をかけた事もあります。又高専在校中にもクラブ活動の帰りに門池へよく釣りに行き、あるときは80cmを超える大ゴイを釣り上げた事もあり、立派な魚拓と共にとても良い思い出です。最近海辺で釣り好きな少年達の姿をみかけますが、昔の自分を見ているようでとても懐しくなります。そんな事で、常に身近にあった釣りの、仕事や生活の中で、ゆとりがなく、いつしか忘れそうになっていた頃、古い友人から誘いがありました。そして彼が最近伊豆半島の沖磯で大物を相手に釣りを楽しんでいるという事を聞き、もういてもたってもいられなくなり、一つ返事で誘いののった訳です。ここでこの久し振りの釣行の回想を少し御紹介したいと思います。

平成3年11月25日午前3時、南伊豆の石廊崎を目指していよいよ出発です。目的地まで約2時間、他に対向車もなく快適なドライブのうち、まだ薄暗い海辺の大瀬部落へ到着しました。もう既に先客が何人か来ており渡船の出発を今や遅しと待っていました。私達も仕度をし皆で協力し船に荷物を積み込みます。実にスムーズに手から手へと荷物が手渡され準備完了、いよいよ出港です。東の空が大分明るくなり、海上は微風で、心地良い磯の香が肺のすみずみまでしみわたるようです。目的の釣場、牛ヶ瀬が遙か沖合に浮かんでいます。小船は波しぶきをあげながら進んでいきます。沖に出てみるとうねりもあり上下に大きく揺れます。日頃の生活と全く違うこの豪快さは、自分の中の何かが目覚め、体中に気力が漲ります。点在する暗礁を船長が

たくみに躲しながら10分程で牛ヶ瀬に到着です。早速一番のポイントへ釣座を構え、はやる気持ちを押えて仕掛けを作り、いよいよ釣りの始まりです。エサのオキアミを細かく潰してポイントにまきながらウキを流しますが、細かい魚が黒山のように殺到してエサだけすぐに盗られてしまいます。それでも諦めずにコツコツと続けます。目の前に揺る群青色の海、そうした中にいると頭がクリアになり日頃考えないような様々な発想が去来します。これも相手が自然の釣りならではの事だと思います。そんな事を考えていると突然当たりがありました。と言うよりは竿がいきなりひたたくられるかのようです。心臓の鼓動は頂点に達し、釣竿は満月のようになり、キーンと糸鳴りがしています。友人の慎重に！という声にやっと我にかえり、数分のやりとりの後、青い海の中にライトグリーン色の魚が横たわりました。イナダです。45cmありました。釣り上げてしばらくは興奮のため手が震えエサも満足につけられないくらいでした。私にとっては、今までで一番強く引いた魚だった為です。その嬉しかった事、今でも忘れません。その後もイシダイ、メジナが釣れ午後2時頃むかえの船が来て納竿となりました。同船の釣客達もそれぞれ獲物を手にして実にいい顔をしていました。私も心地良い疲労感に包まれ、その日のビールの旨かった事は言うまでもありません。それ以来病みつきとなり、毎月南伊豆の磯へ渡っては釣を楽しんでいる次第です。私は仕事と家の関係上、現在清水町に住んでおりますが、釣りに来る人達は、東京、埼玉など遠方の人が多く、私のように近所にこんな素晴らしい自然のある人はむしろ稀かも知れません。とても幸せな事と感謝しております。同窓会の皆様にも、釣りをされる方がいらっしやると思いますが、将来こんな趣味を通じたつき合いもできたら、尚楽しくなるのではないのでしょうか。今後も情報交換等宜しくお願い致します。

我が SRX400

M14 古屋 忠正

若い頃でしたらオートバイなどといっても趣味にもならないかも知れませんが、33才にもなるとひとつの趣味と言えるのではないのでしょうか。というわけで、私の趣味はオートバイに乗る事です。

現在、私の愛車はヤマハのSRX400といって、単気筒のオンロードバイクです。単気筒独特の、低回転からの加速で一回一回の爆発を体で感じられる所が気に入っています。現在の愛車は今年の春に手に入れたものですが、その前も旧型の同型車に6年間乗っていました。それ程、単気筒に惚れ込んでいます。

今年は春に寸又峡温泉に、秋には下諏訪温泉に、温泉に入りに行く事を目的に、会社の友人と日帰りツーリングに行ってきた。以前は何泊かで遠方まで行く事も多かったのですが、友人達も所帯を持つとなかなか自由がきかなくなる様で、最近はソロでの行動が多くなっています。

同窓会の皆様で同じ趣味を持っている方、いっしょにツーリングに行きませんか。是非御連絡をお待ちしています。

21世紀に向けて

21世紀を前にして、 どうなる世界、どうする日本



M1 柳下 福蔵

正月のある日、標題のようなタイトルの番組がNHK総合テレビにより放映されていた。「天安門事件、ドイツの統合、ソ連の崩壊、…と激動の1992年までが解説され、EC統合にむけてのドイツの動向、経済自由化にむかっての中国の変化および経済不振と人種問題等のために従来のように世界のリーダーシップがとれなくなるであろうアメリカの様子が詳しく紹介されたのち、自国の利益のみを最優先し、GNP世界第1位にのしあがった経済大国？日本への今後の課題がかなり厳しく問題提起されていた」ように記憶する。時を同じくして地球規模の環境問題、低開発国援助の問題等がクローズアップしてきており、日本の役割、責任は増大する一方である。

1993年は冷戦の終えんとともに消滅した「今までの世界秩序」に対し、「新しい世界秩序の創成」を目指して各国が模索を始めた元年であり、世界各国の日本に期待するところ大と思う。これからの数年間に日本が「新しい世界秩序の創成」にいかに関与できるか、が「21世紀世界における日本の評価、信用」を決定づけるであろうことは、過去の歴史が如実に物語っている。

このような時代背景の下に直面している現在の不況は当然のことながら大変深刻なものであり、諸兄から戴いた年賀状の挨拶の「今までの不況と異なり…」、「打つ手なしの不況であり

…」、「今までと同じことをしていたのでは乗り切れそうにない不況…」等に明確に語られている。

政治、経済等の地球規模のグローバル化が進む中で、不況対策も世界的な広い視野に立って決断しなければならないことが多くなり、まして「日本だけが…、自企業だけが…」と言った島国的、閉鎖的な考え方は全く通用せず、相手にされないことは言うまでもありません。このことは、「米の自由化」にむけての日本の対応からも十分理解できる。

これからの日本の企業にとって、上述した世界に向っての外向きの活動と、一方で大切なのが企業体質の個性化、特色化という内向きの活動であります。規模も大きくなく、それ程有名でない企業が今日の不況の影響を受けずに経営できている例は、この企業の個性化、特色化が成功した結果と言える。

大変なのは産業界だけでなく、教育界も「18歳人口の減少」と言う大問題に直面している。高専にとっては中学校卒業生の数が平成元年をピークに減少し続けるという問題であり、高専に限らず各大学も志願者数の維持・確保に懸命の努力を続けている。女子学生の増加はこの種の問題の根本的な対策にはならず、本質的には先の企業の場合と同様、外向きの活動と内向きの活動が必要と思う。幸いなことに、文部省は生涯教育、リフレッシュ教育を奨励しており、さらに「開かれた高専」を旗印に地域産業界との研究・教育両面における協力を奨励している。官界の県立工業技術センターも学界・産業界との交流の必要性を重視し、「産学官交流会」や同様の催しが北海道から九州まで日本各地で開催されている。静岡県東部地域（富士川以東）

において沼津高専が「産学官交流」の一翼をになっていることは皆様ご承知の通りです。昨年6月より沼津高専内に開設された「科学技術相談室」、昨年12月に初めて実施された「沼津高専の学校公開（研究室公開）」さらに3年目に入っている「㈱精密工学会・静岡県東部地区精密技術研究会」等の活動は評価に値する外向きの活動と思う。

一方、内向きの活動としては、沼津高専においていかに特色ある教育・研究が実施されており、その結果として有為な人材が産業界に供給できているかと言うことと思う。最近は大学の工学部に編入学する卒業生が多く、平均して約50名（全卒業生の約1/4）に達しているが、これは低学年より実験・実習を重視した「高専の実践教育」が大学に評価された結果であり、関係者としては喜ばしいことであります。

ともあれ、沼津高専は昨年創立30周年を迎え、学校関係者一同さらなる発展に向って気持ちを新たにしたいところありますが、21世紀を直前にした今後の展開を考えますと、産業界と同様、今までと同じ方策を繰り返していたのではさらなる発展は期待できそうにありません。「知恵と英知」をしまり、社会や産業界の変化に柔軟に対応していく工夫が必要のようであります。

産業界と同様、高専も大きなターニングポイントにさしかかっており、しかも21世紀は「新しい世界秩序の創成」に向って、今までにない大きな変化を要求しているようであります。

(注)産学官交流をめざした研究室公開についての静岡新聞記事をP42に掲載してあります。一読して下さい。



21世紀に向けて思うこと

C6 市川 加代子

21世紀に向けて何をしたらよいか。考えることである。自分自身で考えることである。今や情報は溢れている。今日の真実は明日の誤りということはいくらかもある。

フロンは安定で害がなく20世紀最大の発明かとも言われてきた。それが地球を取り巻いているオゾン層を破壊し、大きな被害を出している。紫外線がフロンにあたると壊れてラジカル塩素でき連鎖反応でオゾン層を破壊するためオゾン層のオゾンが減少する。そうすると地上に到達する紫外線量は増え、皮膚癌等が増加する。現在フロンの場合排出規制の方より生産規制が先行している。

有機塩素系溶剤であるトリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1.1.1-トリクロロエタンは、低沸点で取り扱いやすく、脱脂能力に優れている。特に金属部分の脱脂、ドライクリーニングの洗浄液として多く使われてきた。これらの溶剤は急性毒性があることから環境庁は昭和59年に管理目標値を示した。その後平成元年にトリクロロエチレン、テトラクロロエチレンについて排出基準を定めた。こうなると、使用者は法律のかからないほうへ移行するのは常である。静岡県富士川以東の調査によると3物質の合計使用量は、1988年を100とすると1990年は93であった。物質毎の変化は1988年を100として、トリクロロエチレンは30、テトラクロロエチレンは70、1.1.1-トリクロロエタンは140であった。作業上可能ならばトリクロロエチレン、テトラクロロエチレンを1.1.1-トリクロロエタンに変更したのである。特にドライクリーニング業者はかなりの勢いでテトラクロロエチレンのドライクリーニング機を

1.1.1 トリクロロエタン用若しくは石油系用に買い替えた。石油系用は今の所問題はない。
1.1.1 トリクロロエタンは他の2物質に比べ大気中での寿命が長い為オゾン層の破壊に影響するということで生産規制がかけられた。そのため値上がり、また入手困難となってきた。ドライクリーニング機の洗浄剤変更は出来ない。1台1000万円以上もする。

先日ローマへ行く機会を得た。夫の勤続20年のリフレッシュ休暇を利用してである。紀元前の遺跡、ルネッサンス時代の建物に今もあたりまえに人々が住んでいること、数々の彫刻…何日かけても見飽きないであろう。それは退職後の楽しみとするしかないだろう。

それはそれとして、ローマの自動車公害はひどい。2週間経った今も私はローマ喘息に悩まされている。本当のところはそろそろ飛び始めた花粉のせいだと思うが。ガイドさんの説明に拠ると自動車排ガスの規制はなんにもなく、20年前の日本と同じだという。ガイドさんは日本人でイタリア人と家庭を持ちローマで暮らしている。イタリアは20年前の日本を知っていながら何もしなかった大失敗だと言っていた。

日本の自動車排出ガス規制は各種の圧力の中昭和48年に始まった。この時代の苦労は今ではいろいろな本で知ることができる。行政、法律の設定、技術開発とのセクションでもその壮絶さを思い浮かべることが出来る。窒素酸化物排出量平均値で見ると、未規制時代を100とすると48年度規制で70、50年度規制で39、51年度規制で20~27、53年度規制で8となってきた。この規制値設定の物語は昔読んだ零戦や紫電改の開発物語に熱いものが似ているといっは旨く受け止めてもらえないであろうか。

ところで排出基準値はどうやって決めていられるのだろうか。疫学的調査によって、急性毒性マウス半数致死量によってと言われれば私などは鵜呑みにするしかない。どれほどの人に

とって危険かを決定することは大変難しいことだと思う。けれど90%以上の自信がないからと言って、危険なものを野放しにしておくわけにはいかない。また、一度決めたからといって固執する必要もない。研究調査によって使用方法、処理方法、分析方法も開発されていくのであろうし、解決つかないことは後の人達に委ねればよいと思う。しかし、裏腹ではあるが、人の生活に、経済その他大きく関わることであるから慎重であることに越したことはない。

現在の私の趣味は極々みじかな快適な生活環境を考えることである。ランニングコストの安い快適な家、道路からの排気ガスを十分浄化できる木の量や種類、家の敷地を流れる小さい流れの浄化などなど。全てまだ頭の中のことである。

地球にやさしい……、THINK GLOBALLY, ACT LOCALLY! 色々なキャッチフレーズはあるけれど、心をニュートラルポジションに置いて考えて、本当に自分の望む環境作ること、守ることはかなり大変なことだと思う。



未来に向けて

E8 芹沢洋祐

そろそろ秋の声があちらこちらで聴かれ始めようとしている頃、同窓会誌に何か書いてくれないかとの依頼があり、引受けたものの如何に文章を書く機会が少なくファクシミリ、単なる日常会話にて毎日を過ごしているだけの日々であるのかと自分ながら改めて驚いてしまった今日この頃です。

そんな訳で文章も思う様には構成出来る自信はありませんが依頼された、(a)21世紀の日本をどうする、(d)近況報告を合わせたようなテーマで自分なりに思う所を綴ってみようかと思えます。

高専を—E8卒業—出てからも既に20年が経とうとしている訳で(今だに自分としては18才~20才位の気分であるのに気がついて)客観的に見たらかなりの中年(立派な)になっているのではと気がついて何とも言えず不思議な想いに駆られてしまった。果たして自分という者は今現在何の為に生きて何の役割を担っているのかと少年の頃とは違った観点で考えている姿に気がつく。そしてこの先どの様な生き方をして行くのかどうも明確な指標が有るのかと考えると行詰って先へ進みそうもなさそうだ。学生生活に浸っていた頃は時代が安定していて、明治維新や第一次、第二次大戦など様々な歴史上の出来事が起きていた頃に較べて歴史というものに自分達が関わる隙間は何も無い様に感じられていた。当時でいえば『シラケ』だったのかもしれない。特に目的意識もなく、かなり適当にクラゲの人生を今振り返ると送っていた様だ。ただ、それは今を基準に思うのでその頃は熱くなっていたのかもしれない。でもそれは今となっては鮮明な影を私に残しては無いのがわかる。しかし、単なる学生生活としては沼津高専の5年間は他の学校を選択した場合より様々な意味で楽しくあり有意義だったろう事は言える。それにつけても当時は自分というものが「遅れてきた青年」(大江健三郎著)という小説の題名の様にもう激動の世界にはもう既に乗り遅れてしまい、もう用の無い人間であると感じていたのを覚えている。今からよくよく考えると何の事は無い、後から述べるようにただ単に無知だっただけの事ではないのかと思って我ながら恥ずかしい気がする。世の中どころか自分さえも何も見えていなかった(では現在理解しているのかと言われると…)事がわかる。

そう思うと当時というのは私にとって何だろうと疑問に思ってしまう。自分の息子(息子といっても何となく今だに実感が湧かぬ)が努力しない、勉強しない、ゲームボーイやファミコ

ンばかりにしか興味を示さないという女房の愚痴を聞いても自分のその頃を思い浮かべると、果たして子供にそんな偉そうな事が言えるのかねと聴く声がどこからか聞こえてくる。

こんな事ばかりだと人生灰色、いや色も見えてこない(灰色は無彩色であるから色ではないのかも…)人生の様に、そんな思いで毎日を暗く過ごしているのではないかと想像されるかもしれない。が、実はどっこい今現在は嬉戯として毎日を楽しんでいるつもりでいる私が私には見える。何故だろうか、この180°の方向転換は。

何の事はない、よく考えてみれば、精神的な発達がかなり遅かったのではないと思われる。今やっと人並?になって来始めたのかもしれない。ここで結論らしきものを言わせてもらうならば21世紀の日本をどうする—どうでもよいのですそんな事は—それよりも自分が好きだと言え事を自分のやりたい様にしていれば良いのですと言える。

今現在を自分の眼でよく見つめると安定している(世相的に)なんてとても、とても言える様な時代ではないのが今にして良くわかる。遅れて来た少年、とんでもない、そんな事は冗談でも言えない。貴方は歴史の流れの真只中に居る—それも激流(大雨の狩野川か)—そして私は泳いでいるつもりだ。決して流されているつもりはない。たまには流されているのかもしれないが、世の中自分を必要としない、自分がそれを知らなかっただけだ。若い頃の私はお馬鹿さんだった、今もあまりそれは改善されてはいないかもしれないが、一言だけ言えるのは人生なかなか捨てたものではない、充分面白いという事だ。

結論として結べば好きな様に生きなさいという事だと思う、極論すればその事が21世紀の日本をどうにかしてくれる筈だ。結果は自分が造り上げていく、潜在意識がそうせよと命ずるままに楽しく生きていけば全体的に出るだろう。

今現在、道は違えど7人の仲間に助けられて建築を設計し施工もして様々なお客様と遊ばせて貰っている、打合せをし、図面を描いて実際に建物が残ってゆく、作品が残る。

なかなか人生捨てたもんじゃない。

なお建築の御用命は㈱スタジオテイクオフへ。

〒410 沼津市我入道浜町338

一級建築士事務所 TEL 0559(32)9937

FAX 0559(34)1509



近況報告

E1 大日方 一郎

光陰矢の如し。卒業以来四半世紀が過ぎた。来年早々には㈱日立製作所の勤続25年表彰を受けることになる。これに伴ない褒賞休暇が10日間付与されるのでどう使うか目下思案中である。

世の中は不景気の真只中にある。ここ数年続いていた好景気が泡と消え、盛者必衰の理を再確認させられている。ここらで一休みして、自分の生き方をよく反省してみる機会を天が与えてくれているのかもしれない。そんな折、創立25周年を迎えている我同窓会から会誌への投稿のお誘いを受けた。同窓会から示されたテーマは(a)21世紀の日本をどうする。(b)こんな趣味に生きています。(c)ヒット商品裏話。(d)近況報告。と会った。多分同窓会が望んでいるテーマの順序も(a)(b)(c)と来て、それがなければ近況報告でもということであろうと思ひ、依頼の手紙を受けた後、何とか(a)(b)(c)につき書きたいものだと思っているうちにあっという間に1ヶ月が過ぎ結局「でも」で我慢願うことにした。しかし「でも」の中でも(a)(b)(c)の内容に近いもののように思う。

まず(a)につき思い当たるのは今年7月28日、バルセロナで沼津5中の岩崎恭子さんが金メダ

ルを獲得したニュースが飛び込んで来て日本中が沸いた日のことである。NHK海外企画局長の高島さん(元NC21のキャスター)の講演を拝聴し大変感銘を受けた。高島さんは海外を回ってこられての体験を通して、またサッチャーさんや、ソニーの盛田さんあるいは日銀の三重野総裁等の言を引用され丁度我同窓会のテーマ(a)と同じ21世紀の日本をどうするとの問いかけをされていた。岩崎さんや、アルペールビル五輪で複合団体競技を制した3人の若者、あるいはソウル五輪背泳金メダルの鈴木大地選手の活躍ぶりに代表されるように現代日本の若者が根性とか非壮感といったものを感じさせず、大変伸び伸びと、世界の中で活躍するようになって来た。それは丁度1950年代に俺達No1と、明るく伸び伸びと活躍した米国の若者達の姿を彷彿させるものだと語っておられた。20世紀が米国の時代なら21世紀は日本の時代になるであろうとのことだった。そこで大切なのは21世紀に日本が何をやり遂げ、何を残すかだと。それは古いローマ人の法律制度、ルネッサンスの美術、文学、産業革命での科学技術に匹敵するような人類史に残る何かだと。この日、高島さんは日立の情報通信事業部で講演された為か、ソリューションとして「情報通信」がキーワードになるであろうと結ばれた。

折しも今年は電子情報通信学会が75周年を迎えており、次世代を担う若い人々を対象に「21世紀の電子情報通信と社会」をテーマとした記念論文の募集が行われた。最優秀賞「情報通信とこれからの文化」が今月の学会誌に掲載されている。これにもまた感心させられた。感心ばかりしていないで自分でも何か考えなければいけないと思うが。

ここらで(b)趣味の部に移りたい。趣味に生きる程のめり込んでいるわけではないが今一番熱心に取り組んでいるのは5年前に始めたゴルフ。学生時代やっていた卓球は年1回職場対抗大会

の時だけになっている。ただ昨年、学生時代一緒に卓球をやった高橋君がしばらくインドネシアに行くことになるというので、25年振りに母校の体育館で手合わせをした。お互に昔のような打球は打てないが気持ちよくラリーを続けられ、旧交を温めることができた。

母校と言えば、一昨年の10月から野島先生のお誘いで浅学非才を顧みず半年間週一回、電子制御工学科で「集積回路工学」の非常勤講師を勤めさせていただいている。昨年ではそれが土曜日だったため、講義終了後先生方とテニスができ、大変楽しい一時を過ごさせていただいたものだ。しかし今年から学校も週休二日制になり、平日の出張講義のためテニスの方は殆どできなくなってしまった。

休日と言えば、長男が小学校の頃は子供会の野球部のコーチを勤め、公認審判員の免許も取り、一緒に野球を楽しんだものだが今は中3で、親父に怪我でもさせては悪いと思うのかキャッチボールをやってくれとは言わなくなった。ただ少年野球連盟の方からは審判員としてのお呼びが依然としてかかって来て時々出掛けて行っでは、大声を出している。

息子は最近むしろゴルフの練習に連れて行けと言うし、父親の老後を心配して何か楽器を始めたかどうかとしきりに進めてくれる。大丈夫だ楽器はできなくてもカラオケがあるしゴルフなら年を取ってもできる。そのゴルフ昨年からやっとコンペでBBやBM以外の正真正銘の入賞ができるようになった。会社のコンペは毎年6月と11月に開催され約20組が参加し、箱根湖畔GCで腕を競う。昨年6月にBクラスで優勝しやっとならAクラス入りを果たし、今回11月14



日に念願のAクラス優勝を飾ることができた。

紙面が残り少なくなって最後を自慢話でしめくくった形になり恐縮だが、(c)ヒット商品裏話はまだ現役で頑張っている最中でもあり割愛させていただく。21世紀のいつの日か同窓会で電子制御工学科の卒業生と「電子立国日本の自叙伝」続編につき語り合えたらいいなど思いつく稿を終える。

平成4年12月6日

ヒット商品裏話

超精密抵抗器へのご案内

C5 佐藤 牧夫

私達の開発した抵抗器は金属箔抵抗器という独自の抵抗器で次のような特徴を持っています。

- (1) 抵抗温度係数が極めて小さく $0 \pm 0.5 \text{ ppm}/^\circ\text{C}$ のものができる。(温度による抵抗値変化が極めて小さい)
- (2) 一般的な抵抗器に用いられている金属薄膜と異なり数 μ の Ni-Cr 系合金箔を用いているので耐環境信頼性が高い(経年変化 5 ppm/年)
- (3) 高い安定性のため許容差 $\pm 0.0025\%$ で制作可能である。
- (4) 従来温度特性が良いとされてきた巻線抵抗器に比べて形状が小さくまた残留インダクタンスが小さく周波数特性が良好である。

この抵抗器開発のスタートはストレインゲージというものでこれはフィルム上に抵抗体を形成しこれを非測定物にはりつけ測定物の歪量を

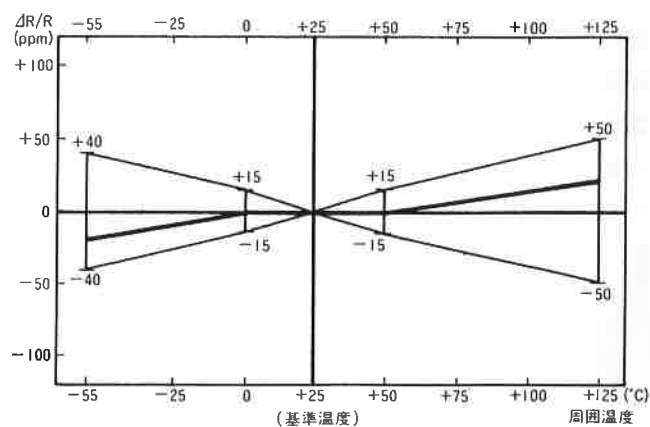


電気的に取り出すもので自動車、航空機等のテストに使用される他、ロードセルとして精密級の計量機等に使用されています。この歪に敏感なロードセルの原理を応用して、基板・接着剤・金属箔抵抗体を最適に選択して処理することにより前記のような特徴を持つ抵抗器を得ることに成功しました。キーポイントとなった技術的問題点は(1)基板の選択(放熱性・熱膨張係数が抵抗温度係数を決定する重要なファクター

抵抗温度特性
S特性品

測定温度(°C)	$\Delta R/R$ (ppm)
-55	0 ± 40
0	0 ± 15
+50	0 ± 15
+125	0 ± 50

基準温度 +25°C



となる)(2)金属組成の選択(比抵抗・温度特性等の最重要ファクター)(3)金属箔の作成(数 μ までの圧延は非常に難しい)(4)接着剤の選択(耐熱性・接着力の他に接着後表面状態がフォトエッチングの精度を左右する)(5)金属箔の熱処理(最適な熱処理を施すことにより温度特性のコントロールが可能となる)(6)フォトエッチング(抵抗値の上限はいかに線巾を細くできるかで決まる。現在 $3 \mu\text{m}$)

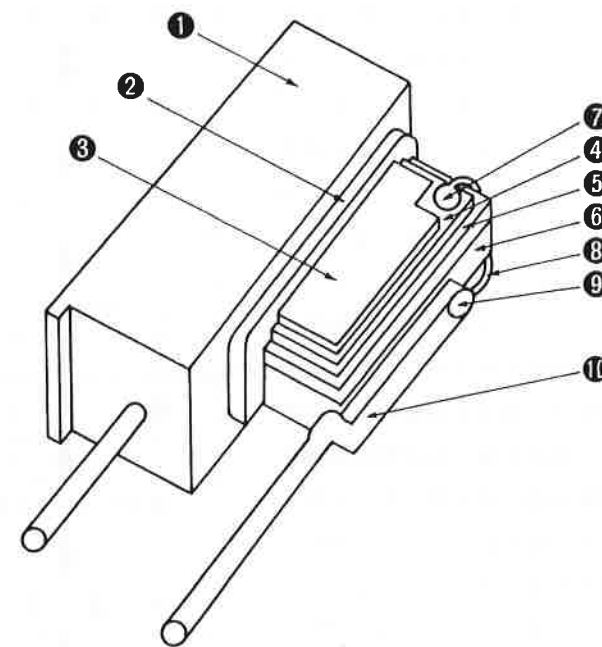
等いろいろあったがそれぞれに抵抗値を変動させる要素があり奥が深くまた他に参考になるものが少なく一步一步前進しているというのが実感です。

測定についても数 ppm というオーダーを測定しなくてはならないので市販の測定器ではあきらまず日本電器計機検定所の指導により 0.1 ppm まで測定可能な装置を製作しました。製造工程についても市販の装置が使用できる工程は少なく、自社で設計あるいは共同開発したものがほとんどです。

アルファエレクトロニクスという会社は昭和54年にTDKをスピニングアウトした11名(私も含めて)で設立し、設立した当初は給料も払えずに失業保険をもらいながらいつかはきっと日の目を見る日もあるだろうと始めた会社でした。この抵抗器が使われている分野は高精度電子機器や電子計測器等ですがこの分野は部品の認定が厳しく評価に半年から1年ぐらいの期間がかかり一部のメーカーを除いてはサンプルのみの出荷しかない苦しい期間でした。現在でこそ数千万円の装置も購入できるようになりましたが当時はピーカー1個買うのにも慎重にならな

モールド形

外装には、耐湿、耐熱および耐溶剤性のあるエポキシ樹脂でトランスファー成型を施してあります。内部の構造では、リードに外力が加わった時にストレスが抵抗体に生じぬよう2次リードによる緩和効果を考慮した設計になっていますので、実装時の振動等に対して安定した性能を発揮します。



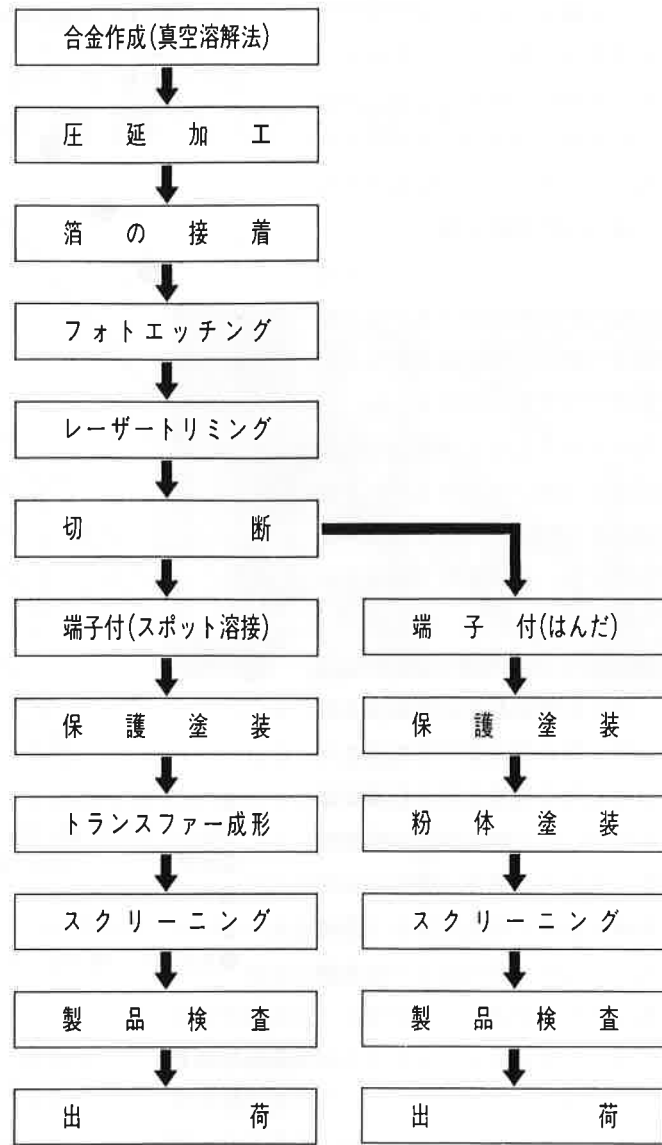
- ① 外装樹脂(耐熱エポキシトランスファー成形)
- ② 防湿+バフア塗装
- ③ 抵抗体保護膜
- ④ 金属箔(エッチング処理した抵抗体)
- ⑤ 接着剤(ポリアミド樹脂)
- ⑥ セラミック基板(高純度アルミナ基板)
- ⑦ 溶接部補強樹脂(耐熱エポキシ樹脂)
- ⑧ 2次リード軟銅線(外部リードのストレスを緩和)
- ⑨ 高温はんだ
- ⑩ 外部リード軟銅線($\phi 0.65$)

ればなりません。当時私は25才で最年少でもありあまりもうかるとかもうからないよりも他社でやっておらず基本的にはすばらしく、また技術的にも課題が多くおもしろそうなものだなあという軽い気持ちで当初から参加しました。今は従業員も100人を超え利益を出さなくてはいけないのですが技術的にもおもしろいのはいかにニーズにあった製品を作り出すかでありその点でクリアしなければならぬ問題は多々あります。当社では適用規格としてMIL規格を採用していますが特に海外のユーザーでは既存の規格ではユーザーが必要とする仕様をス

トレートに要求してくるメーカーが多く一例をあげれば石油探索用に250℃で使用可能な抵抗器とか、精密測定器で使用温度範囲がせまいが抵抗温度係数の極めて小さいものとかがあります。一般品のなかからユーザーが選択するのではなくユーザーが必要なものをメーカーに作らせるというような従来装置等に考えられていた方式を抵抗器のような部品にまで適用しているようです。

またもう一つの技術的な興味としては標準抵抗器があります。これは種々の効正等に用いられる抵抗器で極めて高い安定性が要求される抵抗器の最高峰ともいえるものですが現在最高のレベルのものは海外製品であり、これを作るのが長年の夢でした。これも93年中には製品となる予定です。この他にも高周波・ハイパワー・交流・シャント等数量が多い分野ではありませんがおもしろい分野はたくさんあります。デジタル化の波は進んでも高精度の重要性は今後とも高まると考え、国内のみならず世界に通用する抵抗器を今後とも作り出したいと考えています。

製造方法



同窓会誌に寄せて

近況報告

事務部長 弘中 起夫



お陰さまで平成4年にわが沼津高専も創立30周年を迎え、教育後援会、同窓会の大変なご支援のもとに、11月11日に沼津市民文化センターにおいて芸術院長 犬丸 直先生(高専制度創設時に文部省において担当の技術教育課長をされていた。)による記念講演会を催すことができ、併せて同先生からも「まことに30周年にふさわしく、さすががしさがあります。」とおほめの言葉を戴いた多数のOBの応援参加による堂々たる吹奏楽演奏の会も、在校生に大きな拍手と感銘をもたらして行うことかできた。まことに喜ばしいことであった。

これを機会にここ数年の本校における動きを施設等を中心にご報告すると、ご承知のとおり、昭和60年度から3年間に亘り耐震補強等を含めた各学科棟、講義棟、管理棟の改修工事が行われ、61年度には電子制御工学科が新設されて同学科棟も62年度に竣工した。

その後の主要なものを挙げてみると…

平成元年度 ●工業化学が物質工学科に改組され、富山高専とともに全高専で初めて工業高専に生物工学が取り入れられる(材料化学コースとともに)ところとなった。

●文部省教育改善プロジェクト「オーラル・コミュニケーションを重視した英語教授法の研究」が本校を中心校として実施された。

平成2年度 ●前記のプロジェクトが高評価を受け、これも全高専で初めての外国人教師が着任するところとなり、CAI装置も設置されることとなった。●図書館大改修工事が行われ(～平成3年7月)、館長室、セミナー室の増設、視聴覚教室を220人収容に拡充など、また冷暖房設備その他カーペットに至るまで諸設備が一新され、現在は電算化による図書管理システムの導入が進行中である。

なお、これらに併せて卒業記念品代としてご寄付頂いたものにより立派な文庫本用書架等も整備された。

平成3年度 ●生物学実験棟(2階建て514㎡)が図書館前に竣工し、他高専からの見学者も多い。●情報処理教育センターの電算機もレンタル化によって更新され、格段の性能を絶えず維持することが可能な状態となった。●産学交流を促進するための化学技術相談室も設けられ、定期的な交流の場が持たれようとしている。(ちなみに外部資金の導入-奨学寄附金等の受入れも年々増加している)

平成4年度 ●機械工学科の1クラスが制御情

報工学科に改組され、今様のキーワードで表わすと、機械・電気(子)・制御・情報そして物質と、5学科が全高専の中でもまことに型よく構成され、時代の要請に対応できる姿となった。●永年の懸案であった寮の増改築も手はじめに現在女子学生が入っている明峰寮の隣に52人分の新しい棟の建築がはじまり(さしあたっては女子学生を収容-全校での女子学生数129人)併せて食堂も厨房を中心に大改修が行なわれ全体もいくらか広がる。今後もう1棟を寮地区最後方に新設し、その後、既存の寮の改修が順次進められる予定である。これらは全て個室、2人部屋に整備され、格段の居住環境の改善が図られることとなる。本校においては特に早期の完全改修をめざしている。●目下は制御情報工学科棟をせまくなったキャンパスのどこに建てるのか思案中である。

ときどきはお来校の上現状をご覧いただければ幸いです。

このように、順調な進展をみる事ができているのも、校長以下秀れた教官陣を容すること、同窓諸先輩の社会でのご活躍、優秀大学への編入学の状況、1期生である柳下教授をはじめとする同窓教官の増加によるいわゆる愛校心、私どもの先輩のご尽力による事務官、技官の成長、なにより教官と事務官・技官の連携、コミュニケーションの良さが一致結束のまとまりを生み、文部省をはじめ各方面から屈指の高専との評価され続けていることにはかならない。

これからの高専は、施設設備の拡充、教育環境の整備や地域社会との連携が大切であることは勿論であるが、急速な技術革新、技術の融合化に対応できる高度化された、かつ十分に个性的な高専であることが希まれていると思う。そのためにはそれらを志向する従前のような良質な学生を継続的に確保する策とともに、一方で教育研究を支援する事務部(事務官・技官)の

質的な充実が必要であろうと常日頃研修に努めているところである。この際あらためて諸先輩のご意見、ご後援を切に願い近況報告とさせて戴く次第である。

高専生列伝

物質工学科教官 勝 沢 英 夫

私は現在物質工学科に属しているが、今年の3月までは工業化学科であった。今年度の5年生は工業化学科で、4年生以下は物質工学科である。くどい話し方だが、要するに今年度の卒業生をもって工業化学科はなくなり、最後の卒業生を送り出す。大変残念だが工業化学科の名前に「さようなら」を言うと共に、物質工学科が大きく育つことを期待している。現在、物質工学科(今年度工業化学科を含む)は、教授5、助教授5、講師1、助手1から成り、このうち材料系に7、生物系に5の配属になる。今年、生物実験棟が完成し既に生物系学生実験および卒業研究が熱心に行われている。化学科の現状を述べる予定であったが、ここからは思い出話を書くことになりそうである。お許しください。

私が沼津高専に来たのは昭和42年4月で、早くも25年も経つ。それは工業化学科が発足して2年目で、川松・村松の両教授と道海技官が着任しておられ、小坂技官と私が加わった。当時は工業化学科の建物はまだ建設中で、電気工学科の一室に間借り生活をしてきた。やがて工業化学科棟が新設され



ると、すぐ、実験の準備と物品の購入に追われた。有名なケムス化学実験に始まり、春と秋の毎期ごとに新しい学生実験を発足させていたので、物品の発注ばかりしていたような記憶がある。これまでは、私の関係しない学生実験は有機化学実験だけだど威張っていたのだが、最近の物質工学科は生物実験が始まったので、新しい先生方は新実験の準備に追われている。当時の自分を思い出して懐かしい感がある。

初めての卒業研究は学生だけでなく、先生の方が戸惑いの連続で、訳のわからないうちに終わった。しかし、このような乱雑さは、活気のあるもので、どちらかといえば清々しい思い出が残る。当時、学生運動の盛んな時代で、東大紛争・安保反対闘争等大変な時であった。学生にも元氣者が多く、卒研性の中にも豪傑がいて、突然奇妙な服装で現れるので驚いたものだ。あるときは、南京袋に穴をあけ顔を出してポンチヨと称していたことがある。その彼が、卒研を1週間も休んだことがあった。学生に聞いてもわからないので、一時は、原子力潜水艦寄港反対のデモで東京に行ったのではないかと心配した。結局ただの自由旅行と分かって安心した。現在の彼は、大手自動車会社に勤め、欧米に出張したりして大活躍中である。何年前の就職懇談会では、さっそうとしたスーツ姿で現われ、懇話中に居眠りを始めた学生を叱っていた。

着任そうそうの先生には、学校の中でどんな役割を果たすべきか分からないので、先輩の先生にこれをしてほしいと言われれば、素直に承知することになる。私の場合は、ラクビー部の顧問であった。英語の野中先生に頼まれて顧問を引き受け、更に、練習をみてやってくれと言われてグラウンドに出ても、私は何の経験もなかったもので、1日2日眺めただけで引き上げた。それでも夏期以外は月に1・2度の対校試合があり、学生に同行した。当時の沼津高専はレベルが高く、高専同志の試合ではほとんど勝って

いたと思う。しかし、高校に対しては歯がたたず、練習試合で沼津工高がよく相手をして下さったが、何十対いくつといったところで、1トライ挙げる事ができれば、大喜びだった。彼らは大いに鍛えられ、更に沼工部長の岩沢先生には、練習や試合の後で熱心にコーチしていただいた。感謝して余りあるものがあった。そのころの主将は、大柄で頑丈な機械科の学生で、ラクビーについてよく研究していた。私がグラウンドにでると、人が足りない時は、先生パスと言って、ラクビーボールのパス練習に引き込んだ。細長いボールに長軸を中心にした回転をかけて投げ、走るという練習をした記憶がある。彼らがOBになって大分経ってからからだと思うが、OB歓迎会で現役との親善試合になり、人数が足りないからとOB仲間に入れられ、一緒に走った。さすがタックルだけは勘弁してもらったようだ。この主将はなかなかのタレントで高専祭の演劇で主役をしたように思う。副主将は、卒業式で井形賞(現在の成績特別優秀賞)を受けた秀才だった。この荒くれたクラブの学生が大秀才なのは驚きであった。荒くれたと感ずるのは、1試合に1人か2人は脳震盪で倒れるからだ。倒れた学生の顔を見ながら、「今日は何日だ」とか「おまえの名前を言え」とか聞く。答えれば大丈夫だが、エーとかオーとか言っている時は、傍らの学生に「寮の電話で救急車を呼べ」と叫ぶ。普段から十分な練習と準備運動をしていれば比較的少ないのだが、急に試合に出るとやられる。本校グラウンドで、東京の近傍から来た高専生と試合をした時、次々と3人倒れる選手が出て、救急車で病院に運んだ。倒れたのは全て相手校で、しかも、学生の自主性を重んずる学校であったから、付き添いの先生が居られない。夜、病院に見舞いに行くと、しっかりした学生が部長でいるし、しばらくすれば親御様が御出になるとのことであったのでその学生にまかせて帰った。これは他

山の石として、「普段の練習を休んで試合に出るな」である。ラクビー部の顧問は7年半続けた。何もできなかったが、大きな後遺症や死者がでなかったのは幸いであったと今思っている。

臉の裏には個性的だった学生達の姿が浮かぶ。今回は更に多くの登場者が現れる。

乞う御期待。

サッカー草創期

退官教官 澤田 眞 養

今年を謂わば昭和67年、正に沼津高専創立30年になる年です。私も定年退職の年齢を迎えることになったのですから、29歳で赴任した創立時の高専も、もうそんなになるのか、の思いで一杯です。第一期生を迎えるべく編成された教官団は、静岡大学工学部をはじめ、大学関係者が中心でした。しかし、入学してくる学生は、未だ15歳の、高校1年生に該当する少年です。矢張り、少数ですが高校籍からの教官が必要だったのでしょう。私自身が何故沼津高専へ赴任することになったかの詳細は知られていません。転任の一種だと受け止めていました。後日、自分の置かれた立場から類推してみますと、大体次のような条件があったのではないのでしょうか。一般教養科目の社会科で一年時に地理を置いたこと。学生会を組織するために、生徒会顧問経験者が必要であったこと。部活動の指導経験が豊富であること。他の教官方の年齢構成から考えて20歳代の者も必要だったのではないかと。つまり、多少臺が立っていても15歳の少年達の相手になれる者が必要だったのではないかと。等々です。昭和37年春、金岡中学のグラウンド北端に残されていた木造校舎で開校した沼津高専は、井形校長の「人柄の良い技術者たれ」という建学の精神を掲げてスタートしました。私自身は

先ずどのような授業をすべきか、大変大きな課題でした。一般教養の地理が高校と同じで良いはずがありません。と言って大学の教養部とも異なるはずで。そこで工学系の学生にも興味を持たれそうな単元を、高校より

も深く、大学程レベル高くなく教養として身につけてもらおうと考えました。ケッペンとは別として、資源と工業が中心になったのは以上のような理由です。オイルショックの頃と湾岸戦争の時、卒業生からの手紙が増えました。「カフジ油田の記事や映像」で私の顔が浮かんだそうです。こういうのを教師冥利と言うのでしょうか。よく記憶してくれていたなと思います。前任校清水東高の時、H・オーコンナー著「石油帝国」に接して以来、石油経済にのめり込んでいたこともあって「高校よりも深く」が相当な程度になって了ったことは若気の至りとお許し願うとして、石油業、鉄鋼業を中心に、企業拠点なども含めて将来役に立ってくれることを願ったものでした。

学生会については、高校籍出身の市川先生が生徒指導関係のベテランでいらしたのですが、高専では教務系の担当になられましたので、学生部長の木戸教授を中心にその創設に参画しました。初代会長となる佐野君達と長い時間をかけて規約づくりをしたものです。

サッカー部は三井先生のバスケット部より創部が一步早かったと記憶しています。体育館がなく、グラウンドも金岡中と共同使用の状況でしたから、一寸した空地でボール1個あれば数人は参加できる利点。後に初代学生会長になる佐野君が貴重な経験者であったこと。或る日、そ



の佐野君を中心に小さなサークルがイン・ステップ・キックの「素振り」、つまりフォーム作りをしているのを発見したのです。当時金岡中学にもサッカー部はなく、沼津一中と三中ぐらいだったでしょうか。その一中出身の佐野君、伊藤君という貴重な経験者がスポーツ好きの学生、後にバスケット部やバレー部、陸上部の中心になった者も含めて、サッカー部に集まったのです。清水東サッカー部第一回優勝監督の看板を背負ってはいても、高専創設業務に忙殺されていた私が再びボールに触れるようになったのは、それから遠くない時でした。初代主将は勿論佐野君だったのですが、先述のとおり、学生会が組織される準備段階から初代会長に擬せられサッカーから離れざるを得なくなり、吉原出身の杉山君が主将としてリーダーシップをとることになりました。経験とリーダーとしての素質に恵まれた佐野君と、鉄の男杉山君とは好対照でしたが、初代サッカー部は金岡中学グラウンドで高専大会第一回優勝へ向けてスタートしました。北小林へ移転してからは二期生が入部し、他の運動部も活動を開始しましたので、一期生のメンバーは大きく変わります。清水東サッカーの良きライバルであった静岡工高の名監督柳瀬先生が着任され名伯楽として長くお世話下さるようになったのも間もなくでした。

平成4年10月、昭和67年に30年前を振り返ってみますと本当に夢のようです。時々同窓会やサッカー部OB会に出席させていただき懐かしい方々のご挨拶させていただいていますが、清水東と高専の思い出は何と言っても独身であった頃の気軽さがさせた気恥ずかしさとサッカーに尽きます。その後、御殿場高の2年を除き、富士高、沼津東高とサッカーとの縁は切れませんでした。監督としてトレーナーとして身体を思い切り動かしたのは高専が最後でした。その意味でも忘れられない記憶の日々です。

ちょっと一言

退官教官 西谷 元 夫

私は昭和39年4月1日に沼津高専に教員として赴任し、25年間勤務の後、平成元年3月末日をもって定年退職をした。

25年間という長い期間であったが、至って平凡に過ごしてきたため、何か記憶に残るようなことは何一つなく、今も何を書いてよいやら困っている次第である。とにかく、立派な先輩・同僚の先生方から、有形・無形のご指導・ご協力を得て無事定年を迎えたわけである。

私が沼津高専に赴任するとき、ある人が、「『工業高専』という以上、工業が中心なのだから、国語の教師は行ってもすぐいやになってやめるようなことになりはしないか。」と忠告されたが、赴任してみると、そのようなことはまったくなく、学生のまじめさには驚かされた。—これは1・2・3期生たちであったからだろう。中にはちょっと困った学生もいたが—

25年間勤務したのだから、さぞ多くの学生の名前を覚えていることであろうと、第三者は言うが、かつて初期の間に学級担任をした学生の一部以外はほとんどの学生の名前と顔は浮かんでこない。(覚えようとしなかったからかもしれない—失礼—)

退職後、三島の日本大学に非常勤講師として現在に至っている、一方、平成4年4月から御殿場に開校した富士フェニックス短期大学で専任教員としてお手伝いをしている。

時々、人が高専の学生と現在勤務している短大の学生と比較してどうですか、という質問があるが、そのようなことは言うまでもないことである(高専の学生の中には例外もある)。在職中はほとんど分からなかったが、沼津高専から一步離れると、高専の評価の高いことがはっ

きりわかってくる。

とにかく、高専も満30周年を迎えることができ、たいへんおめでたいことである。第1期生の柳下氏は母校の教授として今は学校の中心的存在となっていることは喜ばしい。以下、十数名(?)の卒業生も母校に戻り、研究に教育に励んでいることを思うと、隔世の感がする。卒業生の皆さんは、このすばらしい沼津工業高専の卒業生という誇りをもって大いに活躍してもらいたい。

最後に、沼津高専の益々の発展と、卒業生諸氏のご活躍を祈って終りとしたい。

雑 感

退官教官 野 中 宏

学校は創立30周年、同窓会も設立25周年を迎えられたとのこと、心から祝福したいものです。同窓会誌に一筆との御依頼ですが、特に私の場合には与えられた寄稿の命題もないようですので今回は思いのままに雑文を書かせていただく事にしました。

私は平成3年の春に退官しましたが、創立以来お世話になりましたから約30年間勤務したわけで、私にとっては母校のようなものです私は幼稚園から大学院まで正確に数えると7つ母校があります。このうち2つの母校と言っても1つは中途退学をしたので母校と言えるかどうか疑問ですが、しかし2つとも学制改革という戦後の愚しいと言っては文部省から叱られるかも知れませんが、兎にも角にもその改革で消えてなくなりました。

しかし私はこの2つの母校に最も強烈な印象と愛着を感じています。私達学生を紳士として受け入れ、自由と個性を全くと言っていい程尊重してくれたこと、そしてもう1つは何人かの

素晴らしい先生に巡り会えたからでしょう。私の学んだ母校は、幸か不幸かいずれも長い歴史と伝統といったもので固定観念化されていて、私が沼津高専創立時にひしひしと体験した清新の意気に燃えるといったようなものはありませんでした。もとより学校の歴史とか伝統といったものは大切なもので軽んじてはなりませんので、私は沼津高専が素晴らしい歴史をつづり、伝統を築き上げて行って欲しいと心から念じています。

幼稚園はともかく、小学校から大学院まで、そして在外研究員として勉強したロンドン大学でそれぞれのステージで心に残る何人もの素晴らしい先生に出会ったことは決して忘れることはできません。又その反面、恨み骨髓に徹するという人にも勿論出会いました。敢えて先生と言わず、人とかわせていただいたのですが、忘れ難いという点では、前者も後者も同じでしょう。しかし今この年になって考えてみると、後者に対しては私の側にも若い未熟な人間の至らなさがあったものと反省せざるを得ません。小学校の時出会った本当に心優しきO先生のこと、旧制中学で専門外の事まで情熱的に教えてくれたT先生、旧制高校でも大学でも学問的にもすばらしい先生に出会い色々なことを教わりました。ロンドン大学で出会ったクワーク先生もハドソン先生も又、すばらしい教師でありました。それを思うと、私は沼津高専でいかに情けない教師であったのかと漸愧に堪えません。私の何気ない悪意のない発言であっても、おそらく幾人もの学生諸君の人格を傷つけていたのではないかと思うと申訳なささと教師たる資質に欠けた恥しさで自己嫌悪に陥らざるを得ません。

少し話題をかえることにします。私は学生諸君に、授業中よく自分の専門としてこれだけは誰にも負けないという自分独自のものを持つようにと話しました。この気持ちは今でも変わっていません。卒業生諸君の中には、企業で自分

独自の専門分野で大きな業績をあげている人が何人もいると聞いています。人間の才能というものには限界があり、人それぞれに得手不得手があります。世に天才とか秀才とか言われる人もいますが、それはごくごく限られた人々で私の周囲にもモーツアルトやアインシュタインの様な人は誰もいません。つまり我々は凡人なのです。私などは凡人を上中下に分ければまず間違いなく下のカテゴリに入る大凡人です。大天才や大秀才はいざ知らず私もこれまでに、非凡なる凡人と思えるような人には出会いました。私が学生諸君に言いたかったのは出来るなら非凡なる凡人になって欲しいということです。この分野では、この事項にかけては誰にも負けられないというようなものを持って欲しいと語りかけたのは常に私の中に非凡なる凡人に対する憧れがあったからに他なりません。

もとよりこれになるのには並々ならぬ努力と精進の積み重ねが必要です。その上独自のオリジナリティーとかクリエイティビティが要求されましょう。それと体力というか強靱な精神力に支えられた健康でしょう。よく学びよく遊べとは正に名言です。どんな努力と精進が大切と言っても健康を失っては元も子もありません。私がいい例です。私は昭和54年から10年計画で1つの学位論文を完成することを考え実行に移しました。バランスの理論というハイボセシスを設定し、その命題のもとにオリジナルな論文を書き上げるつもりでした。しかし8年目の昭和62年秋、恐るべき目の疾患に襲われほぼ70%完成したところで筆を折りました。思えば過度の目にかけて無理が私の計画を、そして人生の終末の部分を狂わせたと言えましょう。どれ程目を酷使したかは諸君の想像に任せます。よく働きよく休養することこそ大切です。同窓生諸君の多くはいろいろな職場で仕事にそして研究に日夜励んで居られることでしょう。1人でも多くの非凡なる凡人が出現することを期待して

います。

私は無事定年退官したと言えは聞こえはいいのですが、私の命運をかけたとも言える「バランスの理論」を仕上げることは出来ませんでした。敗北の人生とまでは言いたくありませんが、敗軍の将であったと思っています。敗軍の将は兵を語らぬものですが、諸君らの人生の先輩として語らせていただきました。どうか「よく働きよく休め」を実行して私の轍をふむことなく独創的なことを生みだす自由でしかも真摯な人生を愉快地健康に過ごして下さい。非凡なる凡人を目指して。雑文多謝。

「あそび」ということ

退官教官 渥 美 武 明

標記の「あそび」とは業務・家事・勉強等怠けることをいっているのではない。

高い精度のものを加工する工作機械には思わぬ遊び(ニガシ)が用いられている。滑床面(ベッド)を研削加工し更に模様(キサゲ)づけをして目をたのしませてくれるが、これは一種の必要遊びで油溜りなり加工台の摺動に対し、数々の悪条件に耐えるようにしてある。そして指定の油膜厚さを保ち加工品の精度に影響のないようにしている。

ねじ・歯車等を規定寸法通りに作ったらどうだろうか、動くことすら出来ない。始めからそこに遊びを意として作られている。

子供時代より年毎に遊び方が変わってきて、やがて四角六面となり、休日ともなると軀を憩める理由と称しゴロ寝生活になってしまい、果ては寝過ぎて体調が思わしくなく何事も面白くないの連続だと聴くことがある。ひとつ自分遊びを身に着けてはどうでしょうか。ゴロ寝で頭脳がすっきりしなくなる。時には家族揃って



空気の清浄地へ出かけ跳び廻り気持ちいい汗を流し、弁当開いて眺望をきかせながら戴き、そしてカメラに納める、素敵ではありませんか。胸の内の湿った厭否な気分は飛び爽やかとなり、帰宅、風呂、好物の食事を摂れば新鮮な血流も毛細の

隅々まで届き己とより明日への発想が湧いてくると思う。しかも又、それをノートにチェックしておく。愉しかった今日の雰囲気感情を絵画を感情込めて印象を筆にのせ遊ぶ。何事につけても忙しい忙しいと連続にいわれる人がおりますが、是非忙中に「閑」を作り遊びを見つけ決行すれば知らぬ間に感情が育むようになります。私事も現役時、土・日曜、夏休みもない位動き廻った頃は遊びに遊び廻った。今もワイフ共々遊んでいるところです。

実行中の一案ですが、先ず弥次馬根性持ちつづけるのが大切な要素であろう。目的もなく散策（ウォッチング）をする。目に映ってくるものに何くれと深くみる、場合によっては覗き込むようする、例えば外灯があり、柱に足掛けがない、電球の取換えには梯子を運ばねばならぬのか、電球まで登ったとすると、この笠はプレス製でなく鋳込物だ、下側はクロムメッキにしてある。なる程、単価は。と、当社だと幾ら位になるだろうか、と次から次へと様々なことが浮かんでくる。珍しい鍋がデパートに陳列してあった。高価だ、手にしてみると厚さ3ミリ、底がサイドの5倍近くあり、更に同芯で裏に深さ1.5ミリで10ミリの凹みの溝が何本かあった。何故か、渦巻タイプにすれば効果が同じで安く作れるのではないか。随分と幼稚的と思うものも何処かで共通のこともあって、弥次馬精神の遊びがたのしく面白いと思うが如何か、序々に

馬も高度なものに目が行くものと思う、やがて美術品のことまで目が行き、鑑定までになるかも知れぬ。弥次馬に挑戦してみませんか。

昔から「温故知新」という恰好のよい字体がある、大好きです。

初めて見る機械、電装品がある。大変便利で使い勝手も良い。これまでに到達はどのような過程で出来たのか、この姿を理論的に考えてみる。これまでにする為には、ヒントは何処にあったのか、どんな経路でこうなったのか、その裏には、等々調査したくなる。痛快もあったろう、溜飲も降ったろう、何処に一番難儀をしたかと段々と解ける、今の職掌にこの思想をと…治工具、設計等に職業柄か身に知らされ勉強させられること多々あった。

ある時、職業棋士と合った。われわれはいろんな人達に良く問われるのが、何時も勝負のことで頭の中が詰っていることでしょうか。

そんな風だと死んでしまう。只定石通り指しているだけで、ここ一番と思う時過去から今までの勝負の経過を思い出し、如何に難局を切り開いて来たかを一生懸命に思い出し、それからヒントが得られる、時により休憩時間にそっとノートを開いて思い起こさせるものです。といってくれた。勝負中は疲労が積るからどうすると伺ったら、仕事上では、羽織の紐を強く締めたり弱く柔らかくしたりすると肩の力が変わって楽しく遊んでいる。では仕事以外で頭をカラにするのは、散歩しながら眼腹を大きくする。と蘆蓄（うんちく）のある返事を戴いた。人生こうある可きと念じさせられました。

われわれの文化を育んだところを「体感」し自らの遊びをたのしみながら実体感を致したいものと希望に燃えている。貯へられたご馳走の夢は無限に楽しみが広がってくる。弥次馬精神大いにたのしみである。

近況報告

放送大学と諏訪湖マラソンと

M4 松井孝成

早いもので、長野県諏訪市に来て43才の晩秋を迎えています。もう、あれから22年もたっていることを思うと、母校のなつかしさはひとしおです。

ある夏の晩、水泳から帰ってビールを飲んでいると電話が鳴って、何かかと思って出てみると同窓会誌への投稿依頼の電話でした。水泳の後のビールが快ち良かったのと、沼津高専へのなつかしさと、その昔、私も文学同好会にあって会誌編集の苦勞の一端を知っていたので、ついつい深く考えもせず承諾してしまいました。

私は旧諏訪精工舎、現セイコーエプソンに入社し、現在に至っています。この間、いろいろあるわけですが、今回は放送大学と諏訪湖マラソンに焦点を絞って近況報告をしたいと思えます。

39才の頃、焦燥感を抱きながらふとんの中でうとうとしていた時、何となく、「このままではいけない」と思って、行動を起こしたのが、放送大学への入学でした。ちょうど同じ頃、体の調子もいまいち良くなかったため、会員制のプールへも通いはじめました。

諏訪には早くからケーブルビジョンが敷かれ、東京のTV、FM番組が視聴できる環境下



であったためか、千葉に放送大学設立後間もなく、関東以外では初めて、諏訪地区学習センターができていました。そこへ入学したわけです。放送大学は18才以上であればだれでも入学でき「放送を活用して大学教育を行い、併せて広く生涯学習の要望に応える」目的でつくられ、卒業すると「学士（教養）」の学位が得られます。放送大学では、「産業と技術」を専攻し、高専卒の場合3年に編入できるため、3年に編入し、2年間で卒業を目指しました。しかし、最初の意気込みは良かったものの、これがはじめてみると、かなりたいへんなものでした。単位認定試験があって、60点以上とらないと単位がもらえず、しかも124単位とらないと卒業できません。それでも簡単に単位のとれた科目もあります。「財政と金融」「中小企業論」「産業技術の動向」「経営分析と財務管理」等です。これらは仕事上で知らず知らず学んでいたせいだと思います。逆に何度挑戦しても単位がとれなかったのは、「中古日本文学」「会計総論」

「ドイツ語」等でした。興味があって、楽しく勉強できた科目もあります。「深層心理学」「パーソナリティ論」「現代の人間観と世界観」「中国の思想」等です。

面接授業では、幅広い世代、いろいろな分野の人と接することができ、そして学問のふところの深さも少しは理解でき、有意義なものでした。専攻特論（卒業論文）は、バブル経済への反抗心から、「企業家精神の変遷とその影響についての研究」というテーマでシュンペーター、マックスウェーバーの世界を少し覗きました。結局卒業まで3年かかりましたが家族の協力もあって平成4年3月無事卒業できました。卒業式は文部大臣を迎え、東京の国立教育会館で行われました。

放送大学の静岡ビデオ学習センターが三島市の県立教育研修所内に開設されたと聞きおよびます。静岡県にもだんだん放送大学生が増えていくことと思います。

放送大学で学びながら、先にも延べましたが、体の調子がまいちだったので、その頃から水泳も始めました。最初は25メートル泳ぐのに精一杯でしたが、4年経った今では、平泳ぎでゆっくりなら500メートルは泳げるようになりました。そして、その回復した体力の程度を確かめたいと思うようになり、思い切って第4回諏訪湖マラソン（平成4年11月3日17.8km）に出場しました。水泳とランニングでは使う筋肉も違うということなので9月頃からマラソンの練習をはじめ、大会当日までに諏訪湖1周を4回試走しました。第1回目は歩きながら走りながらで3時間、2回目はゆっくり走り続けて2時間半、3回目はかなりがんばって、2時間10分、4回目は何とかとうとう2時間、と試走し、大会当日に臨みました。

しかし、当日最後列に位置したため、スタートしてから5分位は前の人が大勢いるため走ることができず、これが計算外で、後半かなりがんば

ったのですが結果は2時間1分ゴール100メートル手前で制限時間2時間を知らせる花火が上がりました。しかしたとえゆっくりでも、17.8キロメートルを走り続けた壮快感と達成感が身を包み、

その日1日はずっとしあわせそのものでした。来年は2時間を確実に切れるよう、今また、水泳とジョギングに精を出しているこの頃です。

放送大学を何とか卒業でき、諏訪湖マラソンにも不安はありましたが参加し17.8kmを2時間1分で走り通すことができた43才の今、つくづく思うことは、大げさのようですが願ひが続いていけば、いつかその願ひが達成されるという実感と、はじめに決意ありき、なせばなるの感慨です。

セイコーエプソン諏訪南工場の食堂3Fからは、晴れた日富士山が見えます。沼津高専時代、経済的に下宿する余裕のなかった私は、5年間すべてを寮で過ごしました。寮生活の中、富士山は常に身近にあり、それゆえ、心の支えでもありました。今日も食堂から富士山が見えれば、そこから沼津を懐かしみ、回想にふけるのです。

高層気象観測

E11 浦山正己

ようやく春めいて来ましたが皆様お元気ですか？さむかったですね。長期予報がはずれたら、そして異常気象だったらまったく馬鹿みたいな文章になりますが…秋のうちにお正月向けの商



品を作っている方々の気持ちが少しはわかるような気がします。

気象台と3回言えば何を食べても当たらない、と言われた気象庁に勤めて早や15年、その内8年を高層観測をして過ごしましたので、高層観測について書きたいと思いません。ゴム風船のしたに温度計・湿度計・気圧計と発振器をつけて飛ばすあれです。今時風船、と思われるかも知れませんがジェット機より高い、約30キロ上空まで上がってくれます。測器は今では一体化され、軽くなりました。かつては予報官が高層天気図を描くのに使われた高層観測のデーターですが、今日ではコンピューターで天気予報をする（これを数値予報と言います。ちなみに気温が何度、とか降水量が何ミリ、というような数字を出して行う予報は量的予報と言います）上での重要なデーターとなっています。広い範囲をカバーできるものの値に甘さのある衛星と、観測地点のことしかわからない高層観測、欠点をおぎない合いながら本庁のコンピューターの耳目となっています。システムの一部なので仕事は毎日ほとんど同じルーチンワークとなります。最近では機械化が進み、現地では気をつけていないとますます何もわからなくなって来ました。情報は現地を素通りして行ってしまうので、ややもすると何してるんだろ？という気になるのはラインの宿命みたいなものではないでしょうか。

機械化が進み、ゾンデが変わっても変わらないのが風船の中身、水素ガスです。火のつきやすいガスですが、最近のガスは純度が高く、装置の改良もあって、事故は起きていません。慣れ



とは怖いので、最初の頃はおそろおそろつめていたガスも今では何ということもなく、一気につめる様になりました。

毎日のことというのは書きにくいものです。書く前はこんなことも、あんなことも、と思っても長くなるな、とか専門に過ぎるな、とか考えてしまいます。風船を上げるとトンビやカラスが見物に寄って来ます。お近くに落ちていたりしたら、お手数ですが処分して下さい。（笑）

最後に、話は変わってしまうのですが、ひいきにしているアーティストの宣伝などを…片桐麻美という人なんですがなつかしいスタイルで歌い続けています。フォークが好きだったあなた、ロックのリズムについていけないあなた、暗めの娘の好きなあなた（笑）、探すのが大変かも知れないですがよろしければ聴いてみて下さい。

近況報告

C12 吉川英夫

月日の経つのは早いもので、卒業以来11年が過ぎようとしています。私にとってこの数年間は特に忙しい日々が続きました。86年の結婚を初めとして、2人の子供の誕生（12月には3人目も生まれる予定です）、父親の入院・死亡、念願であった自宅の新築工事等々、更にその間に、引越しが4回、1～3か月の海外出張が5回程ありました。

私の会社での仕事内容は、社内で製作する金型の設計を担当しており、インジェクション成形の金型を中心に手掛けています。ベテランが多い職場のため、まだ若手と呼ばれてはいますが、要求される事はしだいに厳しくなっており、責任もそれにつれて益々重くなっていると感じています。

工業化学科の卒業であるため設計の仕事に付いたばかりの頃は戸惑うことも数多くありましたが、今では楽しく仕事ができるまでになりました。

聞いた所によれば自分の勤める会社が嫌いになって転職してしまった卒業生も多いとのことですが、私の場合は幸いにも職場の上司や先輩・同僚に恵まれている為か、転職を考えなくても済んでいます。もっとも、会社からお金を借りて家を建てた関係で定年で退職するまでは嫌でも勤めなければならないのですが…

ところで、自分の家を持ってから気付いたことですが、御近所の人達との付き合いが深まるにつれて「今まで会社関係以外の友達が何て少なかったのだろう」と思いました。確かにそれまでも親しい御近所の方は居ましたが、借家やアパートではお互いに、いずれは引越してしまうことがわかっているの、ある程度の付き合い方しかできなかったのかもしれませんが。

妻は今でも学生時代の友人やアルバイトをしている時に知り合った友人たちと手紙や電話でのやりとりを続けていますが、そんな姿を見ると、とても羨ましく思えます。卒業生のみなさんの中には同じように考えている方が多いのではないかと思います、いかがでしょうか。

人に助けられたり助けたりという経験が増えていくうちに人間関係がいかに大切かはわかって来たように思いますが、こと同窓生同士のつながりについては、まだ少ないように感じています。

そう言う私にしても、同じ卒研室の歴代の卒業生で組織する同門会の幹事になっていながら、6年前に第1回目の集まりを持ってからそのままにしてしまっており大変申し訳ないと思っています。この場を借りてお詫びいたします。

今回のこの同窓会誌を読まれたみなさんが、これをきっかけに学生時代の友達に連絡を取ってくれたらいいなと思っています。

近況報告

M12 山口 則夫

早いもので、もうまる14年になる。

もちろん高専を卒業してからの年月の事であるが、私も社内では中堅と言われる世代になってしまった。

入社以来、営業部門に配属となり、アプリケーションエンジニアとして従事してきた。私の勤める会社は、自動車を始めとしてあらゆる産業と関連する部品の製造販売を業としている。私自身は某自動車会社を担当顧客として来た。私の役割は、いかに多くの受注を獲得するか、担当する顧客のニーズを把握し、タイムリーに対応することにあつた。毎日、顧客の開発設計部門に足を運び、要求に応えるべく奮闘する毎日であった。おかげで、それなりの成果があがり、担当した顧客との取り引き額もスタート時の数倍になった。

私の経験範囲での事だが、営業部門におけるエンジニアの位置付けも大きく変わったと思う。入社当時の営業技術といえば、工場技術の出先機関としての性格が強く、顧客からの技術的な要請や要求を、できるだけ正確に把握し社内に展開する事が主たる責務であった様に思う。所謂、技術サービスだろうか。

やがて、製品の採用も一通り行き渡ると、より積極的・能動的な営業活動が無くては新たな受注拡大に繋がらなくなって来た。また、世は技術革新の時代である。より先進の技術を盛り込んだ製品が求められる。

加えて、昨年のバブル崩壊で、真に価値の有的なものだけが生き残る権利を持つ。

営業部門のエンジニアにとっても真価が問われて来た。

今、私の会社の営業部門の約60%が技術系の

学歴を持つ人達だ。

私は、この5月から、本社営業本部に転勤し、慣れないスタッフ業務と格闘している。格闘といっても、顧客から押し寄せる大波の様な業務の量はない。何を為すべきかについてである。将来を見据えた営業戦略が求められる。

私自身はもともと（いやある時期から）営業にとって技術系も事務系も無いと考えているが、技術素養のない人（論理的な考えのできない人）時代感覚の無い人には勤まらない職種になって来たようだ。以上

海外出張奮闘記

E15 加藤 哲

近況報告をとの事だったが、私は1年半程前に結婚し現在は9ヶ月の男の子を1人持つ父親としての生活に勤しんでいる。会社での勤務も3年前前に現場から設計に移動してからは、平穏で変化の乏しい日々を送っている状態で、あまり書くことも無いので入社してからの事を書きたいと思う。

卒業後私は、沼津のT社に入社し工作機械の電気関係の仕事に携わったのだが、学生時代の電気制御担当教官の『シーケンス制御と言うのは時代遅れだから、もうすぐ無くなるので、あまり勉強する必要は無い。』との言葉を信じて、それをまったく勉強していなかった。しかし、皮肉な事に私が配属になった部所は、主に工作機械のシーケンス制御や機器の調整や変更を行う所だったのである。ただ仕事そのものは、自分の性に会って居たせいか、あまり苦になった記憶は無い。

その後現場で工作機械の基礎を学んだ私は内外の会社への大型工作機械の据え付け指導に多くの時間を費やしたが、今でも内外のそれぞれ

の地に多くの思い出を持っている。

初の海外出張の地となったペルシャ湾口のバーレンは、近年に海自の掃海艇の基地となった所だが、私の行った初夏には工場内の温度が摂氏40度以上、外のひなたの温度は50度以上と言う有様で、暑い日には、『100度（カ氏）を越えると言われると、まるで沸騰している様に感じる。』と高専時代の英語の勝呂教官が冗談で言っておられた事を地で行く様な所であった。おまけに図面のミスで2台の機械の配線が減茶減茶で、火を入れたら、本当にショートして火を吹きそうな状態になっていた。インド人の労働者に対して英語で作業指示をする必要があったのだが、長時間に渡り繊細な注意を必要とする作業を指示するのに、片やジャパニーズイングリッシュ、片やインディアンイングリッシュと意思が通じるとは考えられず、総ての手直しを自分で行い2週間以上の期間がかかったのを覚えている。その後も重大なトラブルが発生し休む間もなく、しかも平均12時間の労働時間で馬車馬の様に働き50日間の出張を終り帰国の途に付いたのだが、日本での恵まれた条件の仕事と違い随分と良い経験となった。またこの様に多い出張であった為に、日本へ帰国できる事がこれほどうれしく思えた事はなかった。

次に思い出の深いのはカナダである。カナダと言うと多くの方はスキーを思い浮かべる様だが、私の行ったオンタリオ州は平坦地で近くにスキー場は無かった。12月の初旬から年越しで70日を過ごしたのだが、ただただ室外が寒く、スキー場に住んでいる様な感じだった。天候が悪化するとマイナス15度以下になる事も度々の事で、たまたま日曜日に市内に散歩に出た時に、今日はやけに暖かいと感じ街頭の温度計を見た所、めずらしくプラス3度ぐらいの気温になっている、気温がプラスになる事がこんなにも暖かいものなのかと感動してしまった。また

日曜日は当然安息日で教会へ行く日であるから、ほとんどの商店やレストランは閉店で、やっと午後になると少々の店が開くという状態で飯を食うのにも事を欠く有様だった。ただカナダでは、それほど悪い事ばかりでは無かった。カナダ人は移民が多いので、移民して十数年の人々も多く移民時に苦勞を強いられたせい、外国人の私達の苦勞を察してくれて非常に優しくしてくれた。市内の地理事情に疎く暇を持てあました普段の生活を心配してくれたり、ナイアガラの滝へ行く計画を立てて色々質問をした所、交通事故を心配して日曜日に会社の車で招待してくれた事もあった。それから夜も暇で仕方がないので、酒を飲む機会が多かったが、カナダ人は外であまり強い酒を飲まないのか、共に飲みに行った時に私達は普通に飲んでいづもりなのだが、カナダ人におまえ達は大酒飲みだと言われてしまった。この後も2回カナダに出掛ける出張があったが、安定した職を得る事ができるなら、私も移民しても良いと思うぐらいにカナダ人は気さくで親切だった。

その他では、中国での事も忘れることができない。そもそも数値制御装置（NC）の故障で囚われの身と成っている機械担当者との入れ替わりで行って、上司からは2週間出張に行ってくれと言われたのだが、結果的には2ヶ月の出張と成ってしまった。場所は福建省三明市で亜門から内陸に入った所で、上海から汽車で36時間ぐらいかかって到着した。当時はまだ、三明地方は外国人が許可なく旅行できない所で、しかも私が中国人に似ているせい、中国人に『何故中国語がしゃべれないのか。』と言われたり、道を開かれたりもした。現地での仕事はNC故障の状態確認と対策だったが、故障の内容はCRT部のCPUボード内のビット落ちで、英数字が全部%や!や?などの記号に化けていて、ボードを交換しないと修理できない事が分かった。しかし工場の担当者は、自分の左遷が

かかっている上に、この機械で加工する輸出用機械の重要部品が待っていて、この近在では、この機械に変わる物がなく、輸出契約が破棄されたなら損害賠償請求すると息巻く始末だった。仕方なくやたらに記号を表示しているCRTの解読表を作って機械を動かし、現地のプログラマが、マニュアルを読みながら初めて作ったプログラムをデバッグし機械に乗ってタイヤプレス機のフレーム2m四方の機械加工を始めた。なにしろNC機が初めての会社で無い物づくめで苦勞したが、6枚のフレーム板を加工完了し、北京からの修理部品を持ち、やっと許されて帰したが、この時私の体重は8kg近く減少していた。

この他、アメリカ、フィンランドなど話の種が尽きないが、良くも悪くも、ここには書ききれない程の経験をした。ただ今思い返すと、その当時は常に何かにピリピリした状態で余裕が無かった様な気がする。海外で望むと望まざるに係わらず起こる心理的摩擦の中で生活していると、どうも心が安まらない。会社と家の往復の今の生活に飽き飽きしている諸氏も多いと思うが刺激が有り過ぎるのも考え物である。現在は先にも述べた様に父親としての平穏な日々を送っている私も、時として昔の事を懐かしく思うこともあるが、もうしばしこの生活が続く事を願っている今日この頃である。

雑 感

M18 塩 川 治

先日、同級性の栗田君より電話が入り、剣道の練習の誘いかと思ったら、同窓会誌に何でもよいかから寄稿してくれとのこと、学生時代からお世話になっている栗田君にふたつ返事でOKを出してしまったが、いざ書く段階になると学生時代のレポートと同じで締切り間近にならないとやらないもので、原稿用紙が届いてから2ヶ月もたってしまいました。それでもOKを出した以上、今さら断る事もできず思いつくままに書いてみようと思います。さて、沼津高専を卒業して8年半がたちました。私は現在東芝EMI御殿場工場に勤務しています。工場の製造品目としてコンパクトディスク、レーザーディスク、ミュージックテープ、ビデオカセット等を製造しています。私はその中コンパクトディスクの製造技術を担当しています。私がまだ入社したての頃は、まだまだレコードの製造が主で、コンパクトディスクはまだ世の中に出回ったばかりでプレーヤーは、高価なもので私の給料の1.5ヶ月分ぐらいしたものでした。しかし、数年もするとレコードの生産が減りコンパクトディスクの製造の為にクリーンルームが増床されていき、今はレコード生産の名残も無くなってしまいました。レコードはアナログ信号の再生だけに生かされた技術でしたが、コンパクトディスクはデジタル化された信号を再生するため、音楽以外にも、ROMとしての機能を持つCD-ROM、その他CD-G、CD-I等々いろいろな方面への利用もされています。沼津高専を卒業してからの世の流れも学生時代には8ビットであったパソコンも（当時岩谷先生の所に初めての16ビット機があったと記憶しています。）16ビット、32ビットへと進歩していき技術の進

歩は凄まじく、学生時代は教科書を覚えるだけで良かったのですが、会社に入ると今の技術を更に開発していかなければならず、たいへんな毎日となっています。

学生時代にろくに勉強もせず、やっと卒業させていただいた私にとって、会社に入ってから、いかに今の仕事を処理していくのか苦勞をしています。しかし、最近になりやっと仕事のおもしろさが分かりかけてきたところです。人間にとって毎日が勉強ではないでしょうか。そんなことが少しわかりかけてきた30才台目の青年のひとり言でした。



Dr.中松講演会報告

工業化学科4年 市川 雅章

さる6月27日土曜日、あの発明家のDr.中松を我が沼津高専にお招きし講演会を行いました。

Dr.中松は、フロッピーディスクを発明した事で知られ、2000件に及ぶ発明特許の中には、誰の家にも必ず1本はあるあの灯油ポンプや、ヘリコプターによる空中架線、農薬の散布装置、なども含まれています。

また彼の発明のテーマの中にはさまざまなものがあるのですが、長寿、健康に関する発明はかなり興味深いものです。現に彼は1日に4時間の睡眠だけで生活をしているのですが、その秘密は彼の発明した睡眠短縮装置を使っていることなのです。普通ならば、1日に4時間だけの睡眠では、疲れてしまい仕事どころではないでしょう。ところが実際に中松先生にお会いしたところ、疲れた様子はありませんでした。むしろ60才を越えるとは思えないほど肌がつやつ

やして驚かされました。また、中松先生は常に、独創的なアイデアを生み出すために、毎日プールのなかで瞑想したり、すべての食事を写真に納め食事が脳に与える研究などもしているそうです。また、自ら独創学というものをつくって、現に海外の大学等で講義もしているそうです。

このような方のお話を聞き、将来独創的なエンジニアになるためのノウハウを学ぶという企画がこのDr.中松講演会でした。

この活動は、私たち学生自身の手によって学校とはほとんど関係なく行われました。そのため多くの問題点もあったのですが、私たちはDr.中松を呼ぶ会を結成し活動に当たりました。

担任の浜渦先生をはじめ、C4父兄会、高専Dr.中松を呼ぶ会メンバー教職員の方々、OB会の方々、企業、その他多くの方の協力を頂き



Dr.中松を呼ぶ会メンバー

なんとか、講演会を開くことができました。

その結果、当日は高専体育館を埋めつくすほどの大成功を納めることができました。当日、Dr.中松は、おなじみのフライングシューズで高専の体育館を駆け回り、マイクをもって来場者に質問をしたり、彼の発明に関するエピソードや考えを一時間半程話しました。講演会の内容のほうもなかなかの評判でした。

この会を通じて私は、沼津高専がどのようなところか少しづつ見えてきました。

まず沼津高専は国立であるために保守的などころがあり、活動をしていく上でかなり困難な部分がありました。

しかし今回のように、まったく新しい活動に対して、反対する人もいれば協力的な方も大勢いました。

金銭面だけでなく、入口に取りつける大きな看板や講演テーマを書いていただいたり、マイクのリハーサルにつき合っ機械の扱い方を教えていただいたりもしました。また物質工学科の浜渦先生や、機械工学科の池上先生のように最初から最後まで大勢の先生方を説得してくださった先生方もいました。

また沼津高専の特徴である全寮制についての認識が変わりました。寮といえば高学年になるにつれて役仕事を任せられ、下級生をリードしなければなりません。今回のDr.中松を呼ぶ会の影の実力者であった私の友人は、50人近くのメ

ンバーにどう対応すればいいのか、団体としての行動についてなどの問題について非常に的確な対応、臨機応変な態度に私もびっくりしました。しかし彼はそのような知識をどこで得たのでしょうか、それは寮の仕事をしていくうちに鍛えられたものだと言っていました。彼以外にもリーダーとして各仕事をメンバーをまとめながらこなすような仕事を多くの寮で活躍していた友人にやってもらいました。このような人をまとめるような能力は、一般になかなか身に付けるチャンスがありません。そして高専の寮は、このような能力を身に付けるのに適したリーダー養成機関の役目を果たしていることを知りました。

今回の活動を通して我々学生の自主性、独創性が、これからの社会に期待されていることを知りました。そしてその期待に応えられるように僕たち学生も沼津高専を卒業した後も、独創的なエンジニアになれるように一生懸命努力したいと思います。



Dr.中松を囲んで

細々と地道に活動中

— 西湘支部だより —

増田 徳 一

同窓会創立25周年、おめでとうございます。25年前に1期生が社会に巣立ってから早くも四分の一世紀が過ぎ、今や同窓生が4000名を越えたとのことで、正に感無量の思いが致します。同窓生の多くが社会にどっしりと根を下ろし、会社内だけでなく地域社会においても中堅として活躍している現在、これからが沼津高専同窓会の真価を発揮する時だと、期待している次第です。

さて、本日は西湘地区の同窓会活動について、同窓生の皆さんにお話したいと思います。西湘地区では従来年2回、正月と夏に親睦会が開かれていましたが、1992年より年1回夏だけの開催となり、西湘地区に在住している人達を対象に、細々と活動を続けています。

1992年の西湘地区同窓会は10月3日(土)に、三ッ井東司先生と木ノ内倫弘同窓会会長をお招きして、小田原駅前の中華『昇玉』で開催されました。毎回参加者は15名前後ですが、出席者は1期生から22期生まで幅広い年齢層に亘り、年齢差を越えた、和気あいあいとした家庭的な雰囲気の中で、近況報告や母校の話など、予定の終了時間を超過する程のもり上がりをみせています。

また、西湘地区同窓会では年に1回、同窓会開催時に会員の皆さん全員に、西湘地区の会員名簿を配布しています。この名簿には住所や勤務先の他に、出身中学校や在学時代の所属クラブも記載されており、毎年1回見直しされ、更新しております。同窓生にとっての最新情報そ

のものだと言えると思います。

今年(1993年)も9月に西湘地区同窓会を開催する予定であります。西湘地区に住んでいる方で、まだ西湘地区同窓会に入会されていない方は、どしどし幹事までご連絡下さい。入会金は無料です。

西湘地区というのは、どのような地域なのか分からないという方がいらっしゃるかもしれませんね。西湘地区というのは、小田原市、南足利市、湯河原町、真鶴町、箱根町、山北町、開成町、二宮町、大磯町など神奈川県内の西地区に位置する地域を対象にしていますが、実際には平塚市、秦野市、厚木市、相模原市、御殿場市、小山町など地域外の人達も沢山参加しており、幅広い活動をしております。ですから、地域外でも是非この地区の同窓会に出席してみたいという方がいらっしゃいましたら、ご遠慮なく幹事までご連絡頂きたいと思います。

幹事の連絡先は次の通りです。どの幹事でも結構ですから、手紙又は電話で、氏名、卒業期、学科、住所、電話番号等をご連絡下さい。



〔西湘支部幹事連絡先〕

- | | | | |
|-------|---------|---------------------|-------------------|
| (M1) | 増田 徳 一 | 〒250 小田原市東町3-9-35 | TEL. 0465-35-2938 |
| (E3) | 栢 沼 昭 夫 | 〒250 小田原市成田674 | TEL. 0465-36-2955 |
| (E10) | 内 藤 篤 | 〒250 小田原市蓮正寺638-2 | TEL. 0465-36-5998 |
| (C6) | 内 藤 元 子 | (旧姓・長谷川) 連絡先は同上。 | |
| (M13) | 興 相 裕 | 〒250-01 南足柄市和田河原909 | TEL. 0465-73-3197 |

同窓生の積極的な参加をお待ちしています。(1992年11月末日脱稿)

小関克己君を想う

E16 四 條 弘 次

私達16期生が、母校沼津高専を卒業して、早10年が過ぎました。皆、社会人として一人前になり、結婚、子供の誕生など人生の節目をむかえる人も多いのではないのでしょうか。同級生の消息も、そういう話題が多い今日この頃でした。そんなある日、某地方新聞の社会面に載っていた交通事故の記事が目にとまりました。「国道一号線で昨日交通事故が有り、対向車線からはみ出してきた車と正面衝突し、掛川市の小関克己さんが亡くなりました。」要訳すると、このような内容であったように記憶しています。この記事を見た時、最初は(同姓同名の別人だろう。彼は確かアメリカに行っているはずだから。)と軽く見逃していました。しかし、翌日、高専時代の同級生から、「小関が交通事故で亡くなったらしいぞ。」との電話があり、昨日読んだ記事は、私達と高専で5年間学んだ、あの小関克己君の事であったのかと、驚きと共に、

深い悲しみを感ぜずには、いられませんでした。高専時代の小関克己君は、明るく、割りとひょうきな性格で、クラスの中でも人気者でした。卒業後は、ファナック株式会社に入社され、すぐに、アメリカ支社の方へ行かれて活躍されていると聞いていましたので、卒業後はあまり交流がありませんでしたが、彼の明るい性格は、誰からも好かれ、クラスの仲間の中にも、彼の事を楽しい思い出として、思い出す人も多いものと思います。小関克己君は、その後、ご両親の住む掛川市に戻られ、御結婚されて、御子様も誕生されたところであったとお聞きしました。そんな時に、あまりに突然の出来事で、帰らぬ人となってしまった小関克己君の事を思うと、やるせなく、悲しい思いでいっぱいです。

慎んで、ここに深く、小関克己君の御冥福をお祈りいたします。

平成4年度体育大会成績

(第27回全国大会)

陸上競技<個人>

- 砲丸投げ……………山下智司(2位)
- 円盤投げ……………山下智司(4位)
- 100m走……………小澤貴浩(出場)
- 200m走……………小澤貴浩(出場)
- 1600mリレー……………平井・大波・堀
福地・大橋・鈴木
(出場)

(第30回東海地区大会)

陸上競技<団体総合>……………(2位)

〃 <個人>

- 100m走……………小澤(優勝)福地(6位)
- 200m走……………小澤(優勝)福地(3位)
- 400m走……………平井(4位)
- 800m走……………大橋(4位)鈴木(5位)
- 5000m走……………牧田(5位)田原(6位)
- 走幅跳……………平井(3位)
- 110mハードル
山田(3位)小野田(4位)山本(6位)
- 三段跳……………荒屋(2位)鈴木(6位)
- 砲丸投げ……………山下(優勝)<大会新>
- 円盤投げ……………山下(優勝)
- やり投げ……………山本(5位)

陸上競技<団体>

- 400mリレー
小澤・荒屋・平井・福地(2位)
- 1600mリレー
平井・堀・福地・大波(優勝)
- ソフトテニス<団体>……………(2位)
- サッカー……………(優勝)
- バドミントン<団体>……………(3位)
〃 <個人W>……………増田・増田(3位)

水 泳<団体総合>……………(3位)

〃 <団体>

- 400mメドレー
飯田・田中・平沢・村田(2位)
- 800mリレー
富成・鈴木・平沢・村田(3位)

水 泳<個人>

- 100m背……………飯田(2位)
- 100mバタフライ……………平沢(優勝)富成(3位)
- 200mバタフライ……………平沢(2位)

剣 道<団体予選>……………(3位)

〃 <勝抜戦>……………(3位)

バスケットボール……………(4位)

硬式野球……………(2位)

ハンドボール……………(2位)

卓 球<男子団体>……………(4位)

〃 <女子団体>……………(2位)

〃 <女子個人S>……………持田(2位)

テ ニ ス<団体>……………(4位)

〃 <個人S>……………田代(3位)

〃 <女子団体>……………(準優勝)

〃 <女子個人S>……………森(2位)

〃 <女子個人W>……………森・服部(優勝)

弓 道<団体>……………(2位)

〃 <個人>……………池田(3位)

柔 道<団体全国大会予選>……………(2位)

〃 <勝抜戦>……………(優勝)

〃 <個人>

- 軽量級……………加藤(準優勝)
- 中量級……………関口(優勝)前田(準優勝)
- 軽重量級……………森下(準優勝)
- バレーボール……………(3位)
- 空 手<団体>組手の部……………(2位)
〃 <個人>型の部……………大村(優勝)
組手の部……………大村(2位)

ラグビー・フットボール……………(2位)

<対抗戦>

体 操<団体>……………(2位)

〃 <個人>

- 跳馬……………佐藤(優勝)
- つり輪……………佐藤(優勝)
- 平行棒……………久村(優勝)
- あん馬……………佐藤(優勝)
- 鉄棒……………佐藤(優勝)

体 操<女子個人>

- 跳馬……………村上(優勝)
- 床……………岡本(優勝)

(その他の全国大会)

弓道/近畿・東海・北陸・信越地区弓道大会 (準優勝)

水泳/西日本水泳大会……………(6位/20校) <個人>

- 200mバタフライ……………平沢(3位)
- 200m背泳……………飯田(3位)

サ ッ カ ー

1回戦……………沼津1-1新居浜 PK4-5

ハンドボール/予選リーグ……………(2位) 沼津12-19石川 沼津26-21徳山

バドミントン/男子個人ダブルス

1回戦……………増田・増田0-2沼田・近藤(東京)

テ ニ ス/女子個人ダブルス

2回戦……………森・服部3-6田中・深沢(東京)

高 校 野 球/県予選

対 清水東13-2

産学官交流へ 初の学内見学会

沼津高専、16日に開催

一般に公開される沼津高専の実験室
沼津市大岡の同校で



物質工学、機械工学、制御情報工学、電子制御工学、電気工学の五学科で五年生

研究成果や施設紹介 8市町 県東部 中小企業など対象

沼津工業高等専門学校（沼津市大岡、工藤圭章校長）は16日に、産学官交流を目指した初の学内施設見学会を開く。県東部地域の産業界と連携して技術の高度化や産学官共同研究の促進が狙い。昨年、科学技術相談室を設置した同校は、学内を広く一般に開放して、中小企業が抱える悩みや課題に積極的に対応する方針。

施設見学会は沼津、富士、三島など県東部八市町の商議所、商工会に所属する中小企業、富士、沼津工業技術センター、東部地域産業技術振興協会の協議会に参加している企業などを対象に、グループ制と個別制で開く。

物質工学、機械工学、制御情報工学、電子制御工学、電気工学の五学科で五年生が質問に答える。同校の科学技術相談室は運営委員会方式を採用し、各教官が企業などから寄せられた課題などに技術指導や文献の紹介をしたり、各種セミナーなどで講演したりしている。今回の試みはこうした動きをさらに進め、実際に学内を開放することで、地域の産業界と密接な関係を生み出そう、とする狙いがある。同運営委員会の委員長を務める宇井倬二教授は「われわれの知恵と技術が、実際に現場で役立てる場になれば」と話している。

申し込み、問い合わせは同校（電話0559-2214205）へ。

同窓会会則

第一章 総 則

- 第1条 本会は沼津工業高等学校専門学校同窓会という。
- 第2条 本会は本部を沼津工業専門学校に置く。

第二章 目的及び事業

- 第3条 本会は会員相互の連絡、親睦と母校との連絡を計り、工業技術振興に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
 - 一 会員相互の連絡に関する事。
 - 二 会員名簿の発行に関する事。
 - 三 会誌等の発行に関する事。
 - 四 母校在学学生に対する援助に関する事。
 - 五 その他必要な事業。

第三章 会 員

- 第5条 本会は、次の会員を以て組織する。
 - 一 正会員
沼津工業高等専門学校を卒業した者ならびに同校に3年以上在籍し理事会の承認を受けた者。
 - 二 特別会員
沼津工業高等専門学校の教職員ならびに理事会で推薦された旧教職員。

第四章 役員及び職務

第6条 本会に、次の役員を置く。

一 名誉会長	1 名
二 会長	1 名
三 副会長	1 名
四 事務長	1 名
五 理事	若干名
六 監事	2 名
七 名誉顧問	若干名
八 顧問	若干名

第7条 役員は次の職務を行う。

- 一 名誉会長の職務
会長の諮問に應ずる。
- 二 会長の職務
 - イ 本会を代表し会務を総理する。
 - ロ 第4条の事業を行うため、必要に応じて分科会委員会を置くことができる。
 - 委員は会長が選出し、その職務を委嘱する。
 - ハ 総会を召集し、必要に応じて理事会、委員会、その他の会議を召集する。
- 三 副会長の職務
 - イ 会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
 - ロ 会長の置いた委員会を統轄し、その諮問に應ずる。

四 事務長の職務

- イ 本会の会計業務を理事に委嘱することができる。
- ロ 年度終了時に決算報告書、予算案を作成する。

五 理事の職務

理事会を構成し、会務を処理する。

六 監事の職務

会計を監査する。

七 顧問の職務

会務に関し、理事会の諮問に応ずる。

第五章 役員の選出方法及び任期

第8条 会長、副会長及び事務長は理事会において選出し、総会の承認を受けるものとする。

2 理事は卒業年次の各科から2名ずつ選出された者、及び会長の委嘱による者若干名とする。

3 監事は理事会の推薦により会長が委嘱する。

第9条 名誉会長には沼津工業高等専門学校長を推載する。

2 顧問は特別会員の中から理事会が推薦し会長が委嘱する。

3 名誉顧問は長年に渡り本会顧問を歴任し本会に対して特に貢献のあった特別会員の中から理事会が推薦し会長が委嘱する。

第10条 役員の任期は2か年とする。但し再任を妨げない。

2 補欠により選任された役員の任期は前任者の残任期間とする。

第六章 支部

第11条 本会は理事会の承認を受けて支部を設けることができる。

支部についての規定は別にこれを定める。

第七章 会議

第12条 総会

一 総会は原則として2年に1回これを開催する。

必要に応じて臨時総会を開くことができる。

二 総会における審議承認事項は、出席正会員の過半数の同意を得た時可決される。

三 総会における決定事項は原則としてこれを全会員に通知する。

2 理事会

会長が必要に応じ随時開催する。

3 委員会

一 会長が必要に応じ随時設置する。

二 副会長が委員長になり、会長の諮問に応ずる。

第13条 次の事項は総会において承認を受けなければならない。

一 事業計画及び収支予算に関すること。

二 事業報告及び収支決算に関すること。

三 役員の選任に関すること。

四 会則の改廃に関すること。

五 その他会務運営に必要な重要事項。

第八章 会計

第14条 本会の正会員は終身会費を納入するものとする。

終身会費 20,000円

第15条 本会の経費は終身会費その他をもってこれに当てる。

第16条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日とする。

第九章 雑則

第17条 本会の正会員は住所、姓名、勤務先等の変更に関して、その都度、本部に連絡しなければならない。

第18条 本会則は総会における審議で変更することができる。

第19条 本会則を施行するに必要な細則は理事会の審議を経て別に定める。

附則

1 この会則は昭和42年3月20日から施行する。(昭和42年3月20日制定)

2 この会則は昭和43年6月23日から施行する。(昭和43年6月23日改定)

3 この会則は昭和44年11月9日から施行する。(昭和44年11月9日改定)

4 この会則は昭和47年11月3日から施行する。(昭和47年11月3日改定)

5 この会則は昭和50年3月1日から施行する。(昭和49年10月27日改定)

6 この会則は昭和59年3月1日から施行する。(昭和58年10月27日改定)

7 この会則は昭和62年11月1日から施行する。(昭和62年11月1日改定)

8 この会則は平成3年11月17日から施行する。(平成3年11月17日改定)

編集後記

読み易い会誌をモットーに始めた編集でしたが、思うように時間が取れず、知識もとほしく、どの程度達成されたか、不安な面もあります。

テーマを絞らず、散文的な編集として、1ページでも数多くの会員に読んでいただく様配慮しました。又、会誌に愛称をつけて、会員の皆様に親しみを持っていただくようにしました。少しでも、会員相互の情報交換の道具となるよう願っています。最後に、ご多忙中にもかかわらず原稿を執筆いただいた皆様に感謝致します。

編集委員長 望月俊和

編集委員 鈴木正光 山下俊也 栗田博庸
仁科和晴 坂井徳尚 筒井正文

同窓会誌 第12号

平成5年3月15日発行

発行責任者 木ノ内 倫弘

発行所 沼津工業高等専門学校同窓会
〒410 沼津市大岡 3600
TEL <0559> 21-2700

印刷所 ジャパンコミュニケーション
〒410 沼津市柳町3-15
TEL <0559> 23-0123